



Kyushu FG

会社説明会 2020年6月

株式会社九州フィナンシャルグループ
Kyushu Financial Group, Inc.



2020年3月期 決算概要

1. 決算概況	4
2. 資金利益	5
3. 総資金利鞘と利回り	6
4. 役務取引等利益	7
5. 経費	8
6. 貸出金	9
7. 与信費用と金融再生法開示債権	10
8. 有価証券	11
9. 総預金	12
10. 自己資本比率	13
11. 業績予想	14

九州フィナンシャルグループの経営戦略

1. お客様にとって九州トップの総合金融グループへ	16
2. 新型コロナウイルスの感染症への取り組み	17
3. 新型コロナウイルスの感染症への対応状況	18
4. 指標目標と2019年度実績	19
5. 「地域活力共創グループ」への進化	20
6. 「銀・証・信の確立」への取り組み	21
7. 貸出増強	22
8. 広域展開	23
9. 市場運用への取り組み	24
10. 地域産業支援 (1)	25
11. 地域産業支援 (2)	26
12. 地域活性化	27
13. SDGs・ESG課題への取り組み	28
14. 資本政策～株主還元	32

2020年3月期 決算概要



1. 決算概況

- ・業務粗利益は、資金利益及び役務取引等利益は減少したものの、国債等債券損益の増加等によりその他業務利益が増加したことから、前年度比26億円増加の1,117億円となった。
- ・経常利益は、株式等関係損益の減少等により臨時損益が減少したことから、前年度比66億円減少の270億円、当期純利益は39億円減少の182億円となった。

損益状況

K F G連結

	2020/3		2019/3
	前年度比		
経常収益	1,721	18	1,703
業務粗利益	1,117	26	1,090
資金利益	868	△35	903
役務取引等利益	127	△8	135
特定取引利益	4	△3	8
その他業務利益	117	73	43
(うち国債等債券損益)	(56)	(56)	(0)
経費 (△)	758	14	744
コア業務純益	302	△43	345
一般貸倒引当金繰入額(△)	7	12	△4
業務純益	351	△0	351
臨時損益	△80	△66	△14
不良債権処理額等(△)	9	△34	44
株式等関係損益	△57	△100	42
その他臨時損益	△13	△1	△11
経常利益	270	△66	337
特別損益	△2	1	△3
税引前当期純利益	268	△65	333
当期純利益	182	△39	222
(与信費用)	17	△22	39

2行合算

(億円)

	2020/3		2019/3
	前年度比		
経常収益	1,390	△19	1,409
業務粗利益	1,055	17	1,038
資金利益	887	△42	930
役務取引等利益	114	△6	121
特定取引利益	0	△0	0
その他業務利益	52	66	△14
(うち国債等債券損益)	(56)	(55)	(0)
経費 (△)	700	3	697
コア業務純益	297	△42	340
一般貸倒引当金繰入額(△)	6	11	△5
業務純益	348	2	346
臨時損益	△0	△10	9
不良債権処理額等(△)	4	△34	39
株式等関係損益	14	△45	59
その他臨時損益	△10	0	△10
経常利益	347	△8	355
特別損益	△6	△1	△5
税引前当期純利益	341	△9	350
当期純利益	240	△4	245
(与信費用)	11	△23	34

決算ポイント (K F G連結)

○資金利益	前年度比△35億円
・貸出金利息	+10億円
・有価証券利息	△8億円
・外貨調達コスト	+43億円
○役務取引等利益	前年度比 △8億円
・預り資産関連手数料	△5億円
・団信保険料 (△)	+2億円

○その他業務利益	前年度比+73億円
・国債等債券損益	+56億円
(国内部門：△1億円 国際部門+57億円)	
○臨時損益	前年度比△66億円
・株式等関係損益	△100億円
(株式等償却 +71億円)	

○経費	前年度比+14億円
・物件費	+10億円
・税金	+4億円

○与信費用	前年度比△22億円
・一般貸倒引当金繰入額	+12億円
・不良債権処理額等	△34億円

2. 資金利益

・資金利益は、貸出金利息が増加したものの、外貨調達コストの増加により前年度比△42億円の887億円となった。

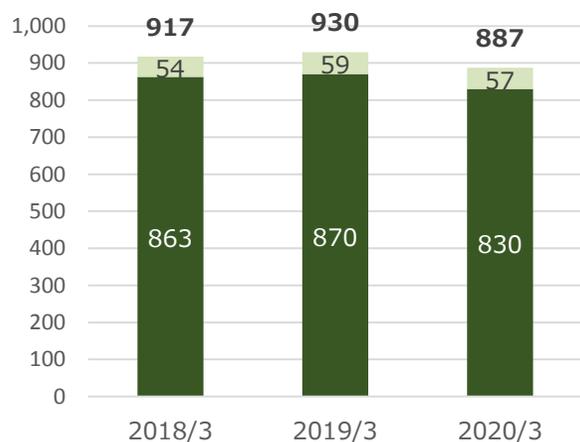
国内部門 前年度比 △40億円 (貸出金利息+2億円 有価証券利息△47億円)

国際部門 前年度比 △2億円 (貸出金利息+8億円 有価証券利息+34億円 外貨調達コスト+43億円)

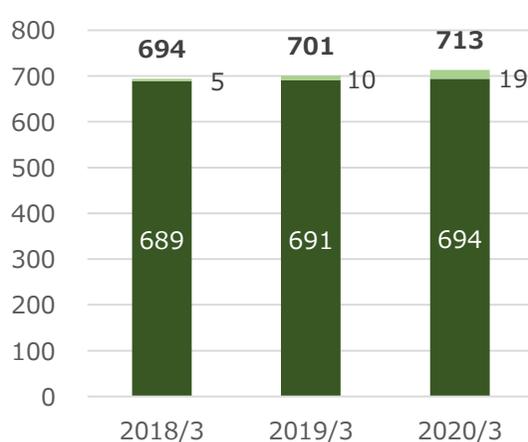
資金利益の状況

	2018/3			2019/3			2020/3			2019/3比 増減
	2行合算	肥後	鹿児島	2行合算	肥後	鹿児島	2行合算	肥後	鹿児島	
資金利益	917	461	456	930	465	464	887	439	448	△42
国内部門	863	418	444	870	418	452	830	399	430	△40
うち貸出金利息	689	329	360	691	331	360	694	332	362	2
うち有価証券利息	209	117	92	205	108	96	158	85	73	△47
うち預金利息(△)	12	6	6	8	3	4	6	3	3	△1
国際部門	54	43	11	59	47	12	57	39	18	△2
うち貸出金利息	5	4	0	10	8	2	19	13	5	8
うち有価証券利息	83	61	22	96	73	23	130	90	40	34
うち預金利息(△)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち外貨調達コスト(△)	31	19	11	42	30	11	85	60	25	43

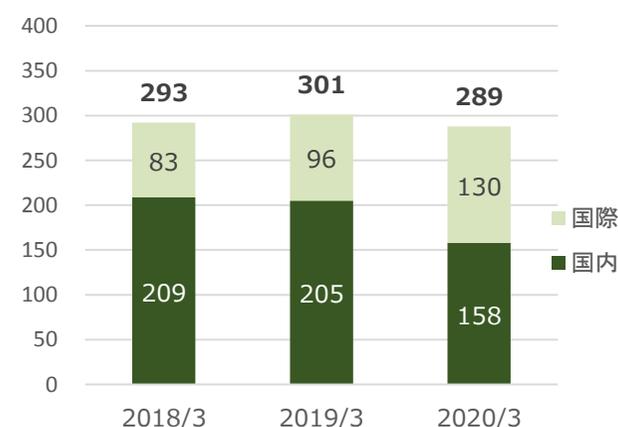
(億円) 資金利益の推移



(億円) 貸出金利息の推移



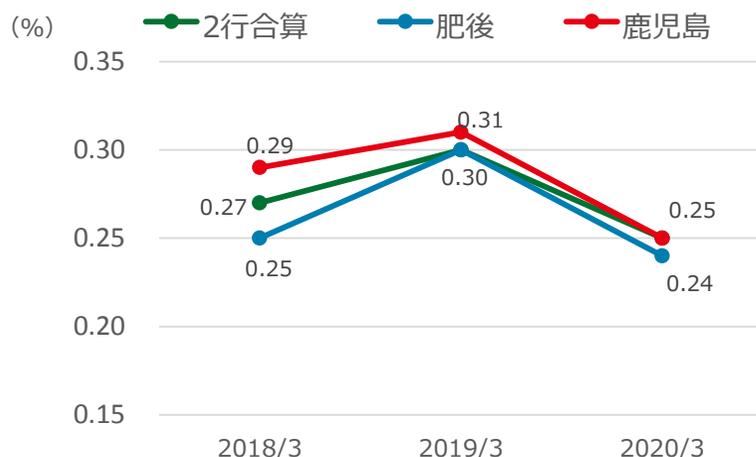
(億円) 有価証券利息の推移



3. 総資金利鞘と利回り

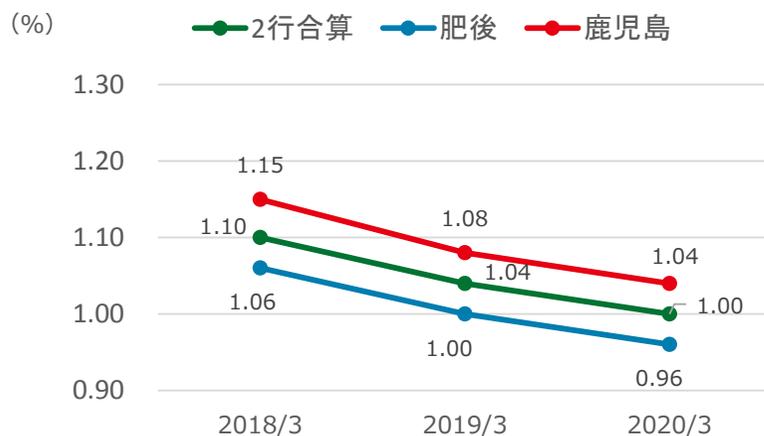
- ・資金運用利回りは、有価証券利回りが上昇したものの、貸出金利回りの低下により、前年度比△0.04%の1.07%となった。
- ・総資金利鞘は、資金運用利回りが低下するとともに、資金調達原価も上昇したことから、前年度比△0.05%の0.25%となった。

総資金利鞘の状況

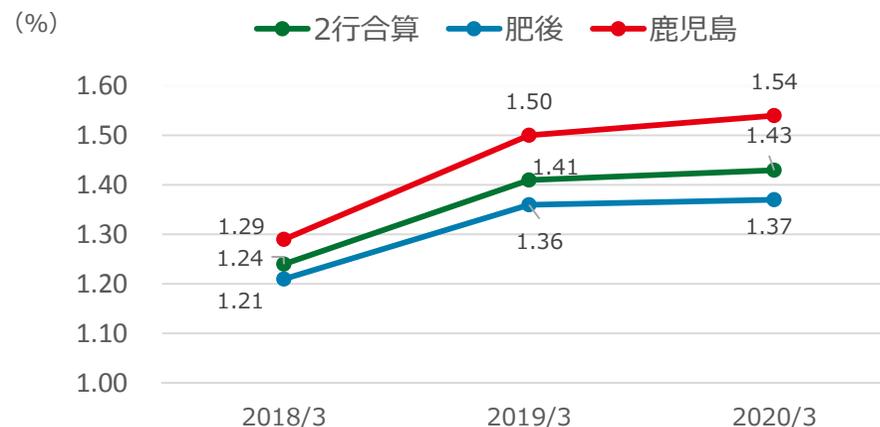


	2019/3	2020/3		増減	
	2行合算	2行合算	肥後	鹿児島	2行合算
① 資金運用利回り	1.11%	1.07%	1.04%	1.11%	-0.04%
貸出金利回り	1.04%	1.00%	0.96%	1.04%	-0.04%
有価証券利回り	1.41%	1.43%	1.37%	1.54%	0.02%
② 資金調達原価	0.81%	0.82%	0.80%	0.86%	0.01%
預金等利回り	0.01%	0.00%	0.00%	0.01%	-0.00%
総資金利鞘 (①-②)	0.30%	0.25%	0.24%	0.25%	-0.05%

貸出金利回り



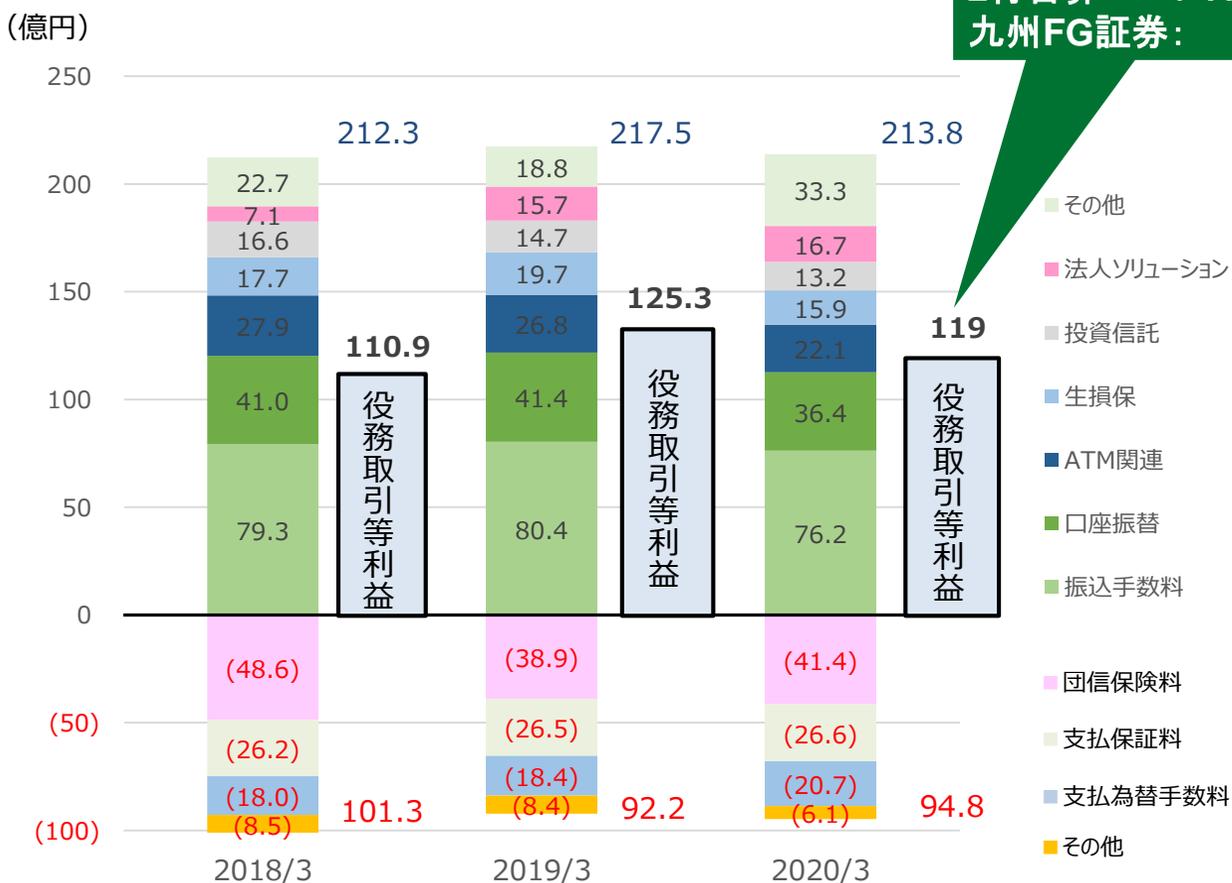
有価証券利回り



4. 役務取引等利益

・2行合算の役務取引等利益は、預り資産関連手数料の減少や団信保険料の増加等により、前年度比△6億円の114億円となった。
 (九州FG証券の預り資産販売手数料を加えると119億円)

役務取引等利益の状況 (2行合算+九州FG証券)



2行合算 : 114億円
 九州FG証券 : 4億円

○役務等取引収益 前年同期比 : △3億円

- ・投信、生損保 △5億円
- ・口座振替手数料 △5億円
- ・ATM関連手数料 △4億円
- ・振込手数料 △4億円
- ・法人ソリューション +1億円
- ・その他 +14億円

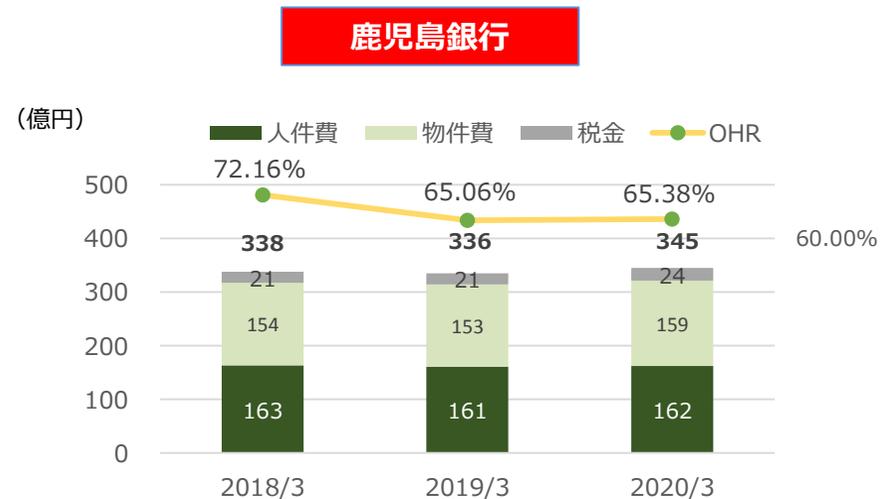
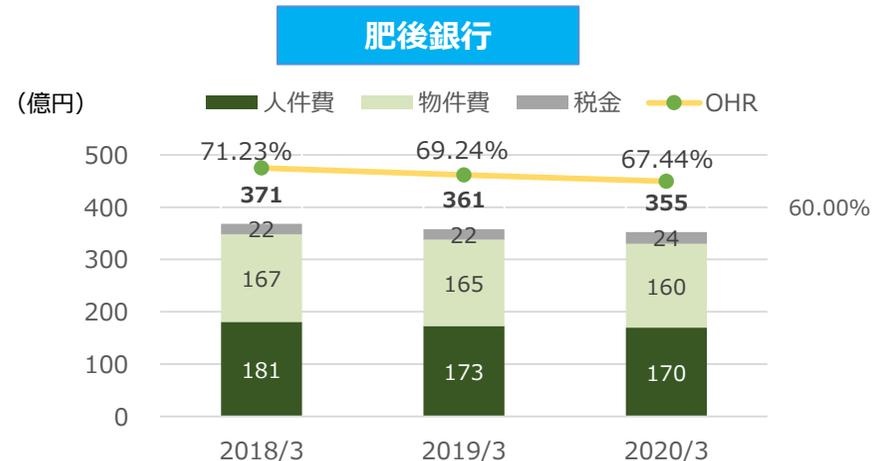
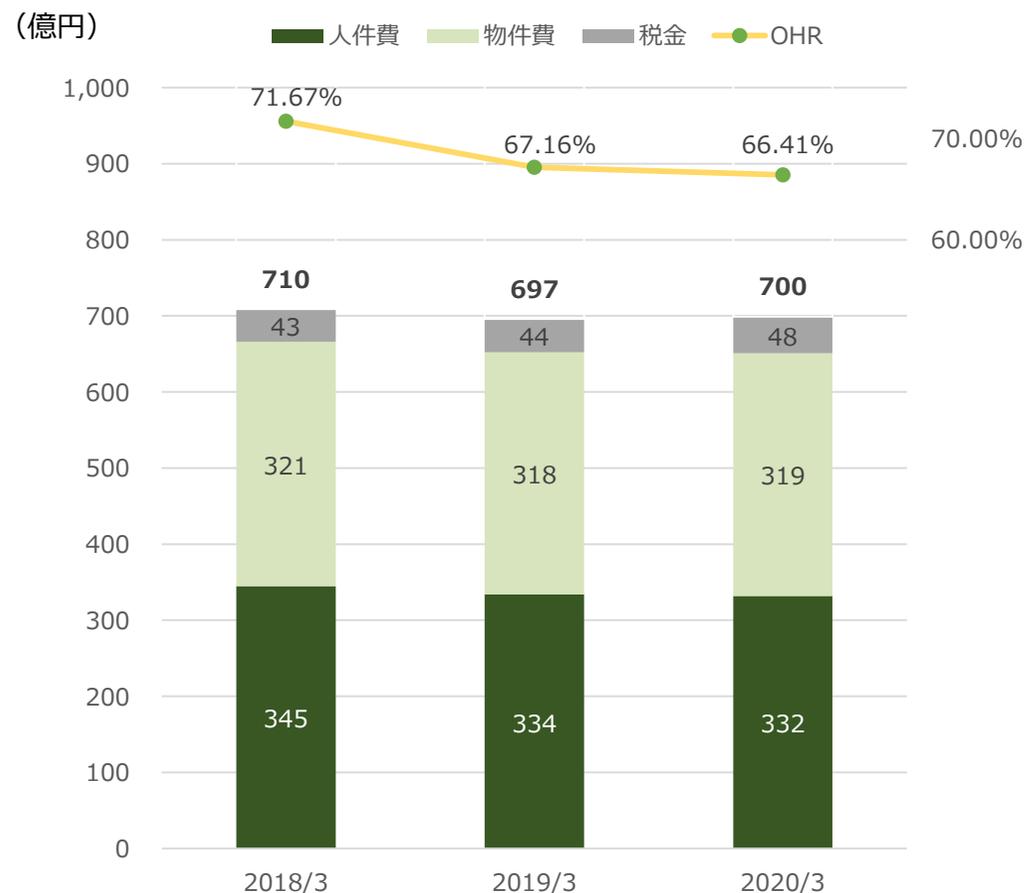
○役務取引等費用 前年度比 : +2億円

- ・団信保険料 +2億円

5. 経費

- ・経費は、人件費が減少したものの、物件費及び税金が増加したことから、前年度比+3億円の700億円となった。
- ・一方で、業務粗利益が増加したことから、OHRは前年度比△0.75%の66.41%となった。

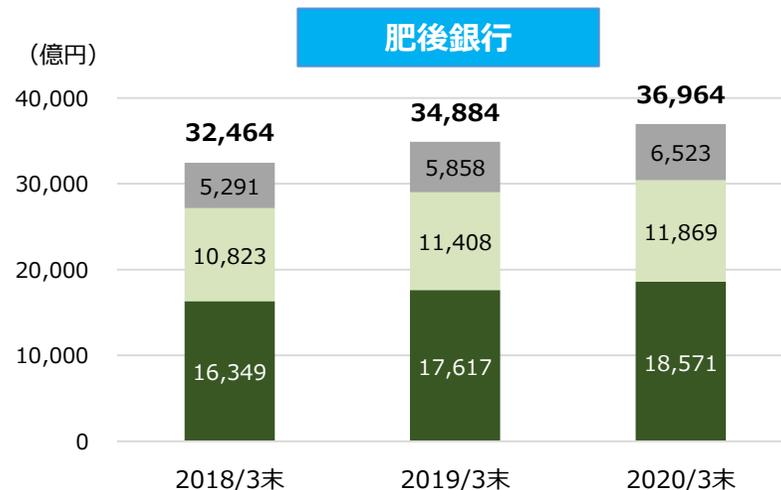
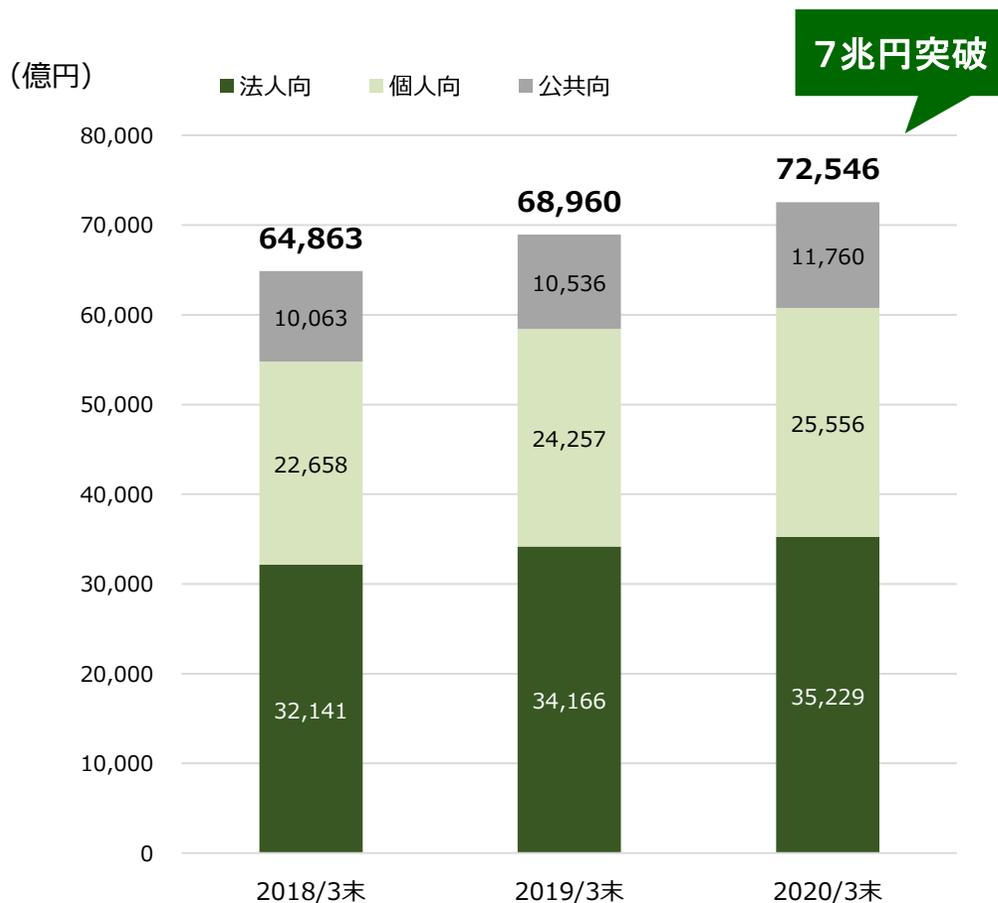
経費の状況（2行合算）



6. 貸出金

- ・貸出金残高は、前年度末比3,585億円増加（増減率+5.2%）し、7兆2,546億円となった。
- ・法人向け、個人向け、公共向けのいずれも順調に増加
（法人向け：+1,062億円 個人向け：+1,299億円 公共向け：+1,223億円）

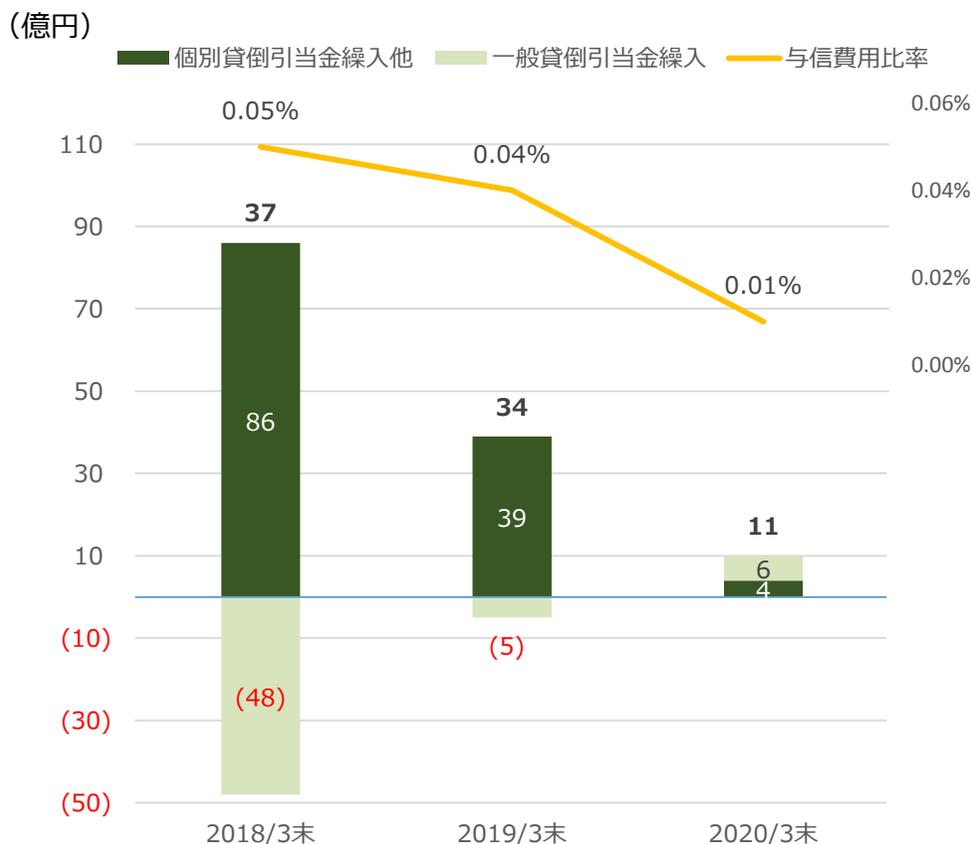
貸出金残高の状況（2行合算）



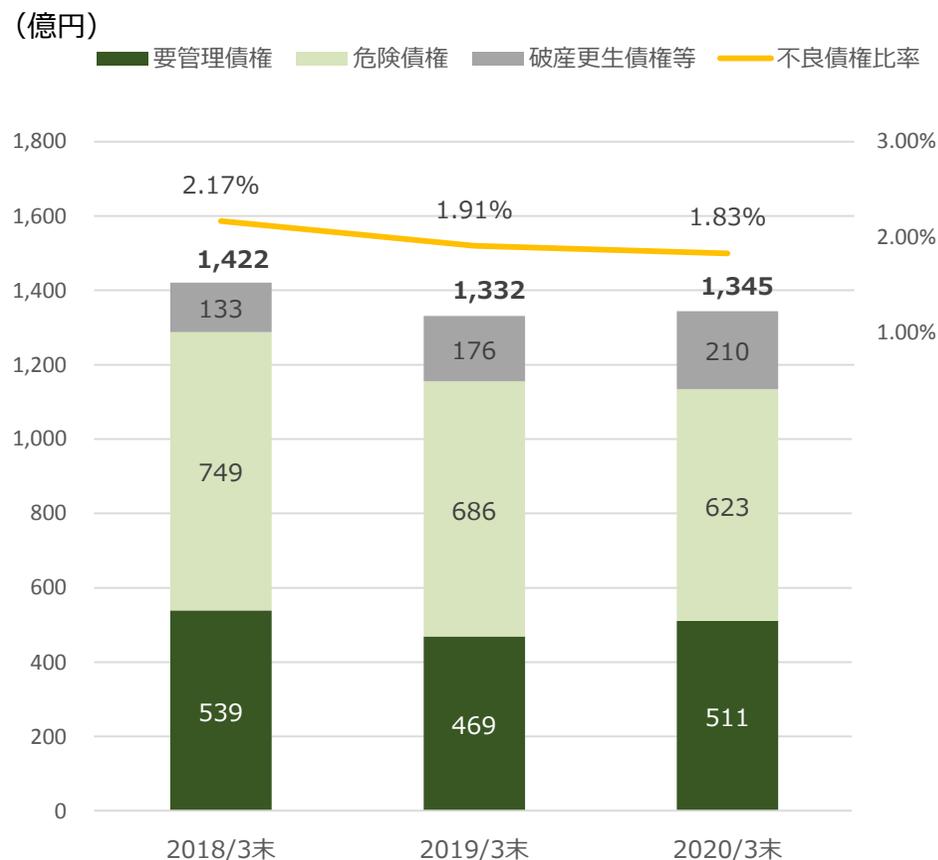
7. 与信費用と金融再生法開示債権

- ・与信費用は、一般貸倒引当金繰入額が増加したものの、不良債権処理額は減少したことから、前年度比△23億円の11億円となった。
- ・金融再生法開示債権は、前年度末並みの1,345億円、不良債権比率は 1.83%となった。

与信費用の状況（2行合算）



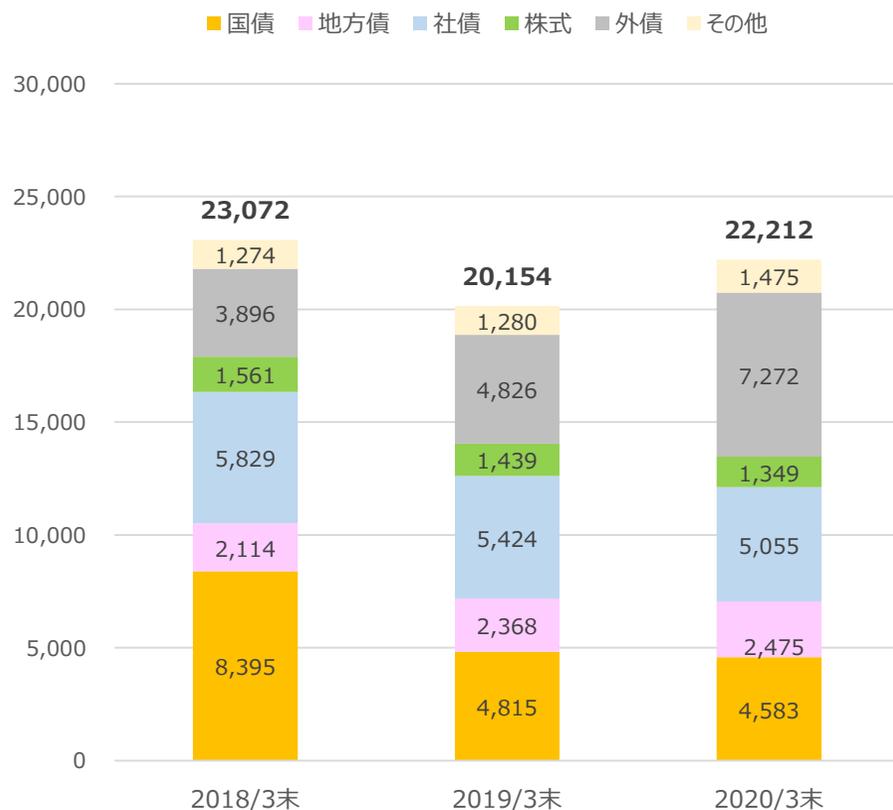
金融再生法開示債権の状況（2行合算）



- ・有価証券残高は、外債を中心に増加し、前年度末比2,057億円の増加。
- ・有価証券評価損益は、外債の評価損益が大幅に改善したことから、前年度末比144億円の増加。

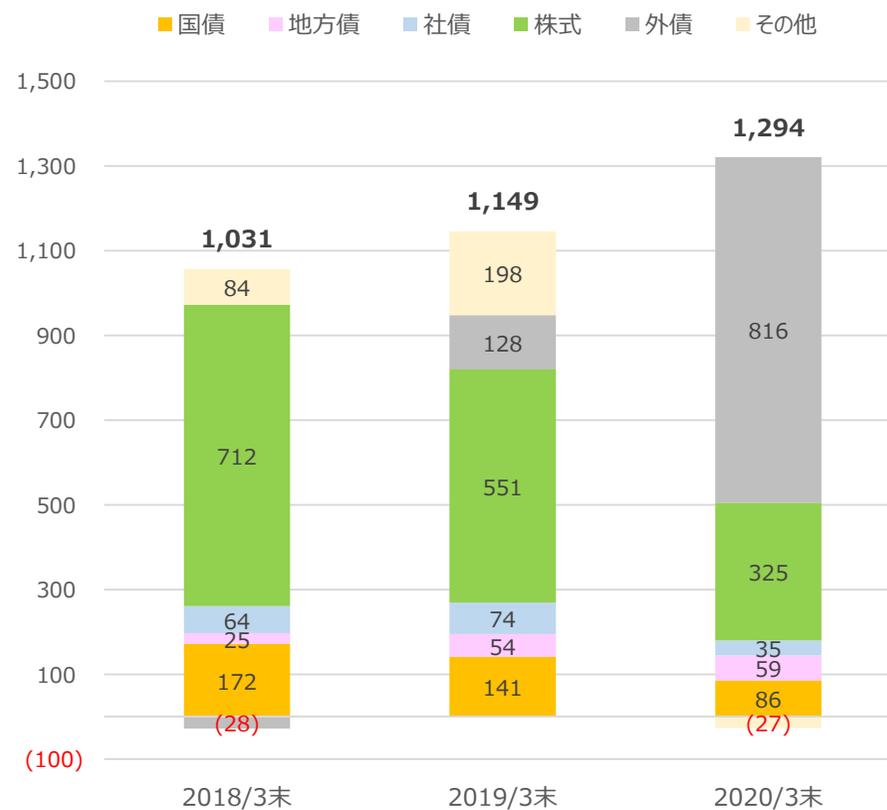
有価証券残高の状況（2行合算）

(億円)



有価証券評価損益の状況（2行合算）

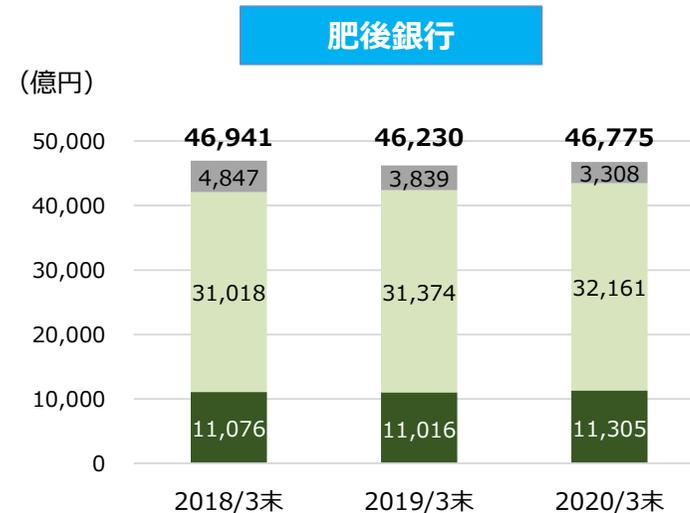
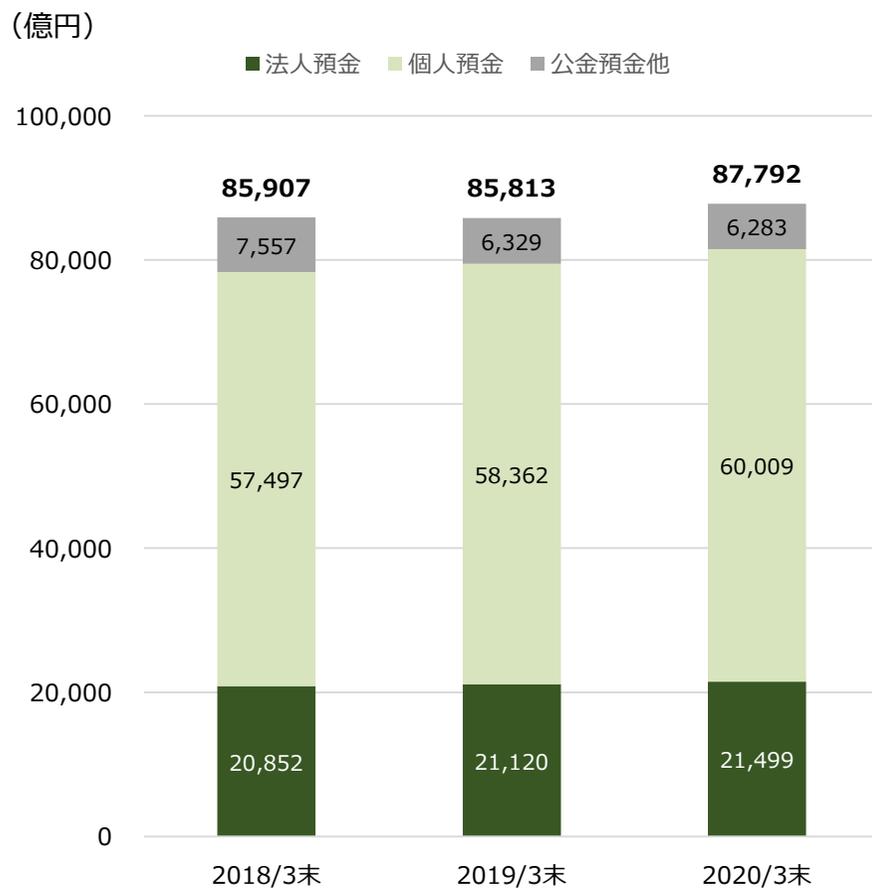
(億円)



9. 総預金

・総預金残高は、法人預金及び個人預金が増加したことから前年度末比1,979億円（増減率+2.3%）増加し、8兆7,792億円となった。
 （法人預金：+378億円 個人預金：+1,647億円 公共他：△46億円）

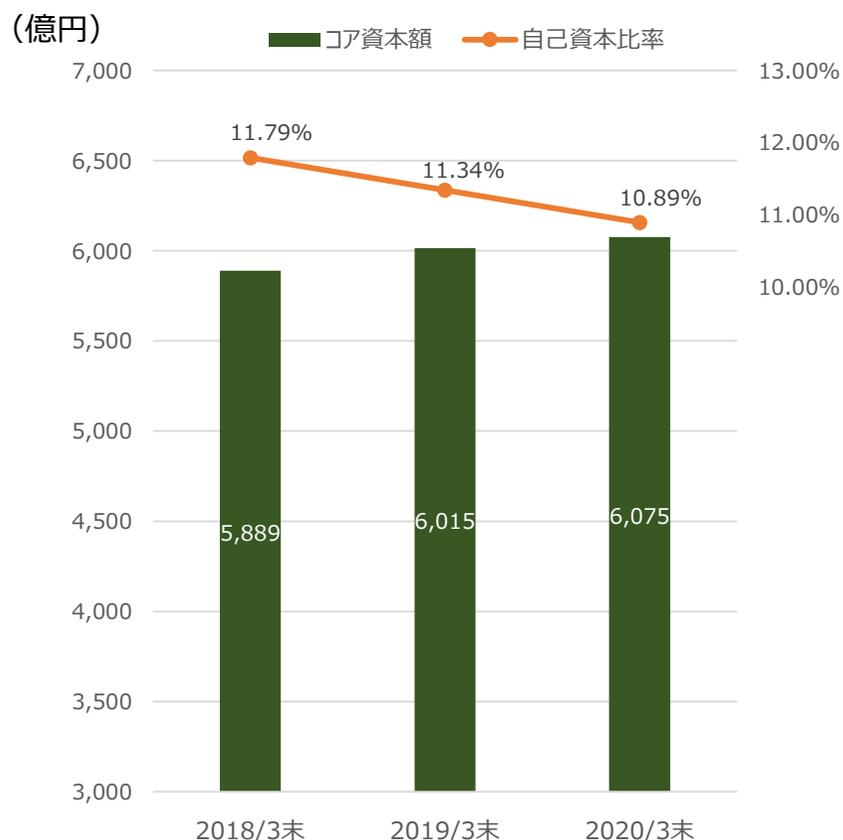
総預金残高の状況（含むNCD 2行合算）



10. 自己資本比率

- ・コア資本は前年度末比60億円増加し、6,075億円となった。
- ・コア資本は増加したものの、貸出金増加に伴いリスクアセットも増加したため、自己資本比率は前年度末比△0.45%の10.89%となった。

自己資本比率の状況（K F G連結）



自己資本比率（K F G連結）

	(億円)		
	2019/3	2020/3	増減
①コア資本額	6,015	6,075	60
うち株主資本の額	5,924	6,011	87
②リスクアセット	53,039	55,758	2,719
③自己資本比率 (①÷②)	11.34%	10.89%	△0.45%

自己資本比率（2行合算）

	(億円)				
	2019/3	2020/3		増減	
	2行合算	2行合算	肥後	鹿児島	2行合算
①コア資本額	5,515	5,668	2,820	2,848	152
うち株主資本の額	5,396	5,577	2,827	2,749	180
②リスクアセット	52,326	55,132	27,352	27,780	2,806
③自己資本比率 (①÷②)	10.54%	10.28%	10.31%	10.25%	△0.26%

2020年度業績予想（K F G連結）

(億円)

K F G連結	2020/3	2021/3
連結経常収益	1,721	1,714
連結経常利益	270	244
親会社株主に帰属する当期純利益	182	150

2020年度業績予想（2行単体の単純合算）

(億円)

	2020/3	2021/3			増減
	2行合算	2行合算	肥後	鹿児島	2行合算
経常収益	1,390	1,364	714	650	△26
業務粗利益	1,055	1,056	525	531	0
経費	700	729	366	363	28
業務純益	348	290	132	158	△58
経常利益	347	239	114	125	△108
当期純利益	240	162	77	85	△78
(与信費用)	11	90	45	45	78

九州 F G 証券収益予想

営業収益 : 13億円
 当期純利益 : 0億円

九州フィナンシャルグループの経営戦略



1. お客様にとって九州トップの総合金融グループへ

お客様と地域に寄り添う現場重視のグループ



Kyushu FG

九州フィナンシャルグループ



九州FG証券



Kagoshima Bank

鹿児島銀行

ガバナンスの高度化
人材力の強化



HigoBank

肥後銀行



権限移譲・現場重視

それぞれが地域トップの金融機関として、自律的に
現場重視で品質の高い経営を実践

お客様と地域の持続的な発展

お客様・地域とKFGとの好循環サイクル

地域の持続可能性

誇り
(自然・文化・生きがい)

健康・安全安心

夢・希望

経済的な安定

経済資本

人間資本

自然資本

文化資本

好循環サイクルを実現

地域・お客様・グループの
持続可能性向上

グループの持続可能性

SDG
への
取組み

社会
貢献
活動

経営理念

お客様の持続可能性

地域総合金融機能

地域産業振興機能

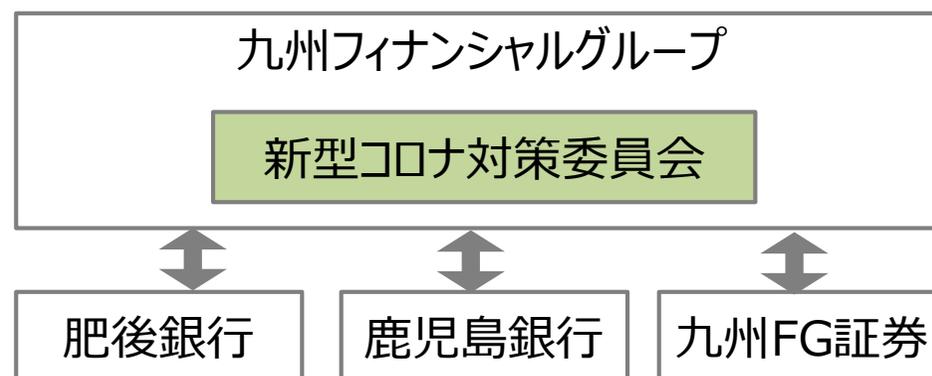
地域活力共創グループとして、お客様や地域の皆様と共に、「経済の再生」と「活力あふれる地域社会」の実現に向け、感染症に強い社会づくりにグループを挙げて取り組んでまいります。

当社グループの取り組み姿勢表明



新型コロナウイルス感染症対策委員会設置

グループ横断的な対策および情報共有を促進



地域経済を支える企業等に対する金融支援力強化

- ・資金繰り支援等の円滑な資金供給の継続
- ・公的機関等と連携した資本性資金の効果的活用
- ・リスクテイク力強化に資する適切な引当等の実施

お客様・地域のICT化に向けた取り組みの加速

- ・企業等に対するテレワーク等導入支援
- ・地公体と連携した手続等のオンライン化支援
- ・当社グループの非対面チャネル・機能の強化

資金繰り支援

- 地方自治体・信用保証協会等と連携し、迅速な融資対応
- コロナウイルス関連融資、既存ファンドへの投資対象追加
- 専用相談窓口、休日相談窓口の設置、休日相談会の実施

ヒアリング対象先

追加融資要望

37,303件

8,136先

融資実行額

4,282件／904億円

(2020年5月末時点)



非金融面での支援

ICT投入支援

グループ会社による「テレワークシステム」、「WEB会議システム」の導入支援

地域経済活性化支援

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けている県内飲食店応援プロジェクトを官民連携で実施



副業人材募集支援

新型コロナウイルス感染症により収入減少となった方へ、副業人材の募集情報をホームページにて紹介



4. 指標目標と2019年度実績

指標目標	2019年度 中計目標	2019年度 実績	2020年度 業績予想	2020年度 (最終年度) 目標値
貸出金平残 (2行)	7.2兆円	7.1兆円	7.4兆円	7.6兆円
総預金平残 (NCD含む・2行)	8.9兆円	8.7兆円	8.9兆円	9.2兆円
連結当期純利益	237億円	182億円	150億円	250億円
お客様向けサービス 業務利益 ※	114億円	117億円	103億円	140億円
連結ROE (株主資本)	3.9%	3.0%	2.4%	4%台
連結OHR	71.7%	67.8%	70.4%	70%未満
連結自己資本比率	10.8%	10.8%	10.1%	10%以上

※お客様向けサービス業務利益：貸出金平残×預貸金利回り差＋役務収益等利益－経費

グループを挙げて、創造的かつ主体的にお客様・地域の活力向上に取り組む

お客様お一人おひとり、地域の課題（ニーズ）

お客様・地域

One to One マーケティング

ワンストップ

銀・証・信連携

重層的・多面的
営業

地域別

チャネル別

グループ
連携

分野別（個・法・公）

デジタル技術



コーディネート

産業支援力

事業開発

街づくり

人づくり

情報仲介

地域総合金融機能の高度化

地域産業振興機能の発揮

経営資源の有効配分

外部パートナー



九州FG

肥後BK

鹿児島BK

九州FG証券

グループ会社



グループ発事業会社

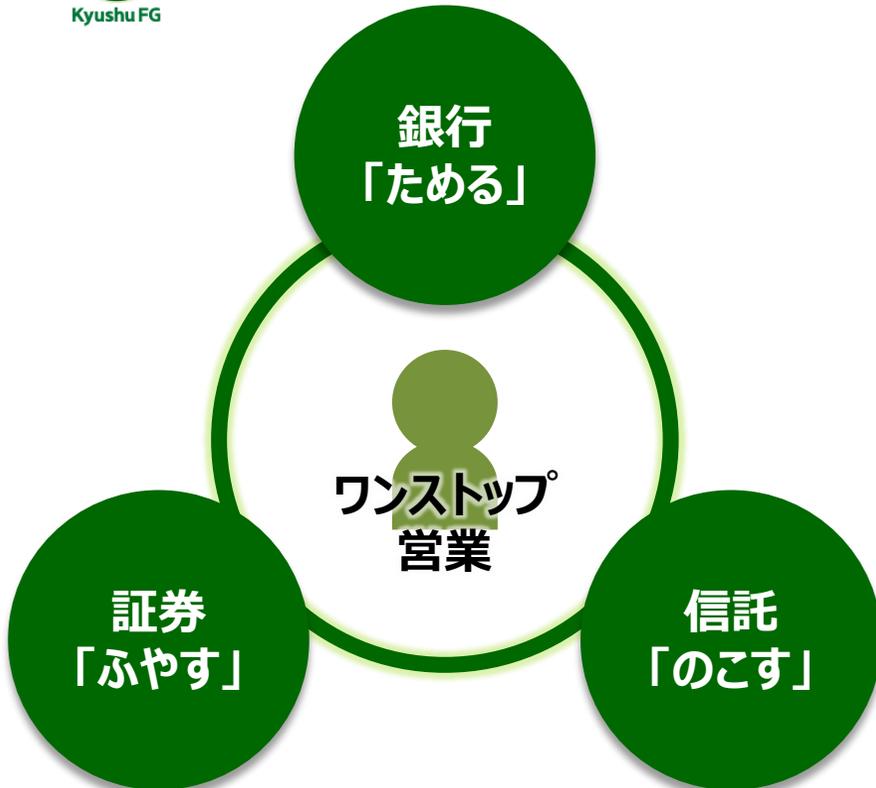
6. 「銀・証・信連携の確立」への取り組み

高齢化社会の進展を背景に高まる相続・資産承継ニーズに対応するため、肥後銀行・鹿児島銀行での信託業務を開始いたしました。これにより「銀・証・信」連携が確立され、お客様のライフサイクル・相続などのご要望に応じたサービスを、ワンストップで提供することが可能となりました。

ライフサイクルに応じた幅広いご提案が可能



九州フィナンシャルグループ



肥後銀行

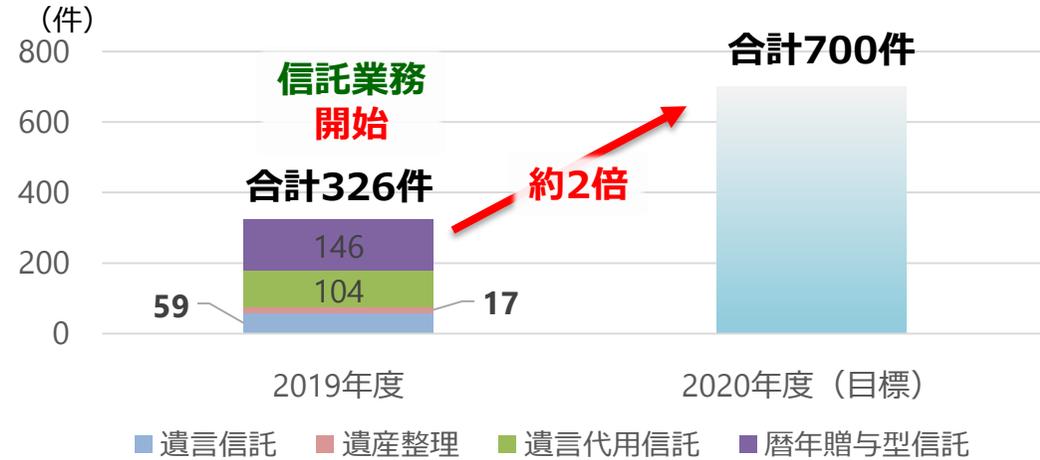


鹿児島銀行



九州FG証券

【信託業務の実績及び目標】



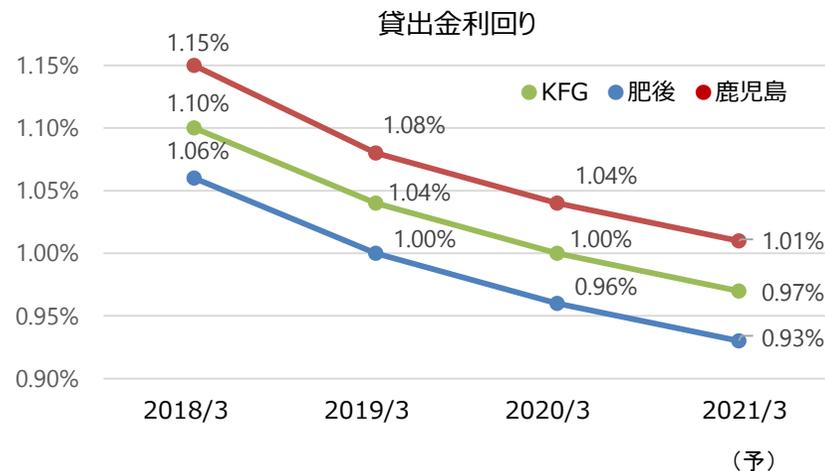
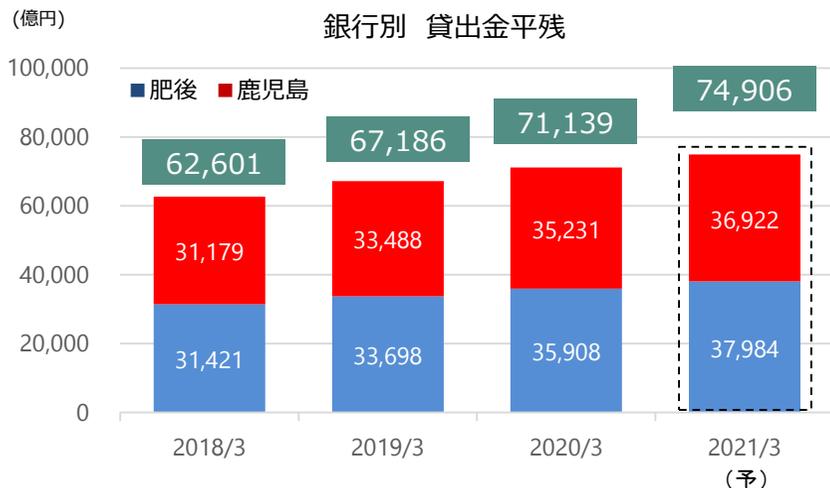
【証券口座開設件数】



7. 貸出増強

両行の強みを活用した営業を展開し、お客様の課題解決を支援することで、地元（熊本・鹿児島・宮崎）における貸出増強とあわせ、県外においても貸出の増強を図っていきます。

- 新型コロナウイルス感染症対応 迅速かつきめ細やかに対応し、ニーズに即した金融サービスを提供
- 地元向け営業推進 鹿児島・宮崎：事業性評価のP D C Aサイクルの深化による貸出増強
熊本：創造的復興に向けた投融資一体の取組強化
- 北部九州、沖縄、主要都市部（東京・大阪）における取引先の裾野拡大



- 貸出金利回り
 - マイナス金利政策の長期化等により低下
 - 低下幅は改善傾向
- 貸出金利回りの確保策
 - リスクアパタイトフレームワークの取り組みによる適正なリスクテイク
 - ライフスタイルに応じた商品・サービスの提供による個人ローン増強等

8. 広域展開

海外における展開では、営業部門と市場部門の協働したお客様の海外進出や現地でのサポート、貿易等の海外取引支援を強化していきます。国内については、両行の協働営業を推進するとともに、地域別に各行の個性を發揮した営業推進も強化していきます。

海外

国内

【KFG・両行】

- **国際ビジネスへの取組み強化**
 - ・外為ビジネス推進強化
 - ・グローバル人材の共同育成
 - ・新拠点の設置検討

【中国・台湾（中華圏）】

- **グループ海外拠点の有効活用、相互情報共有**
 - ・鹿兒島銀行台北駐在員事務所開設（2019/4）
 - ・海外進出や貿易拡大支援
 - ・観光交流促進

【アセアン】

- **業務提携外銀との連携強化、ネットワーク拡充**
 - ・現地投資環境情報、現地金融サービス等の提供
 - ・サービスメニューの拡充

【福岡】

- **「九州フィナンシャルグループ福岡ビル」完成（2019/7）**
福岡における営業、情報拠点機能高度化
- 北部九州戦略の推進
- お客様の販路拡大支援

【東京・大阪】

- **総合調査室**

貸出金残高推移

期間	福岡	長崎・大分	沖縄
2018/3	4460	603	310
2019/3	4885	773	604
2020/3	5,395	761	1032

【沖縄】

- 営業体制の強化（2018/7 鹿兒島銀行第2店舗開設）
- 情報仲介機能の充実、ネットワーク（情報連携）の開拓

那覇空港のハブ機能活用による農畜産物等の輸出支援

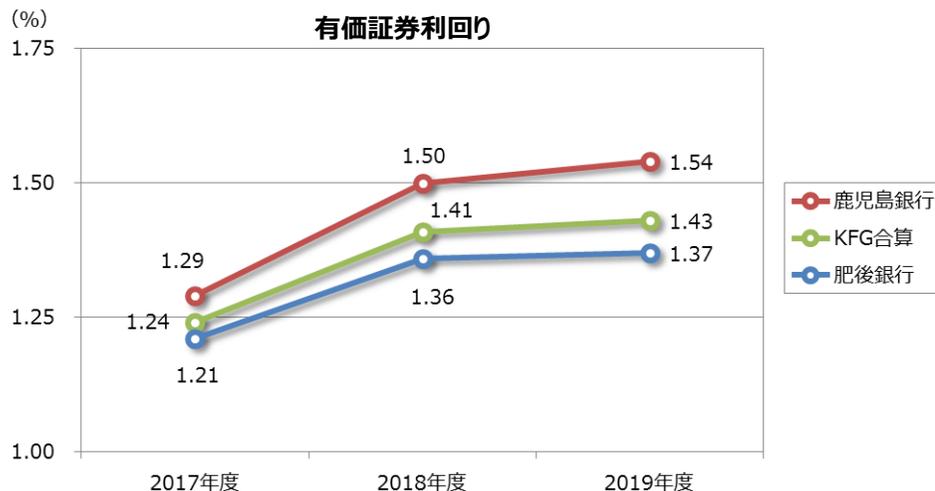
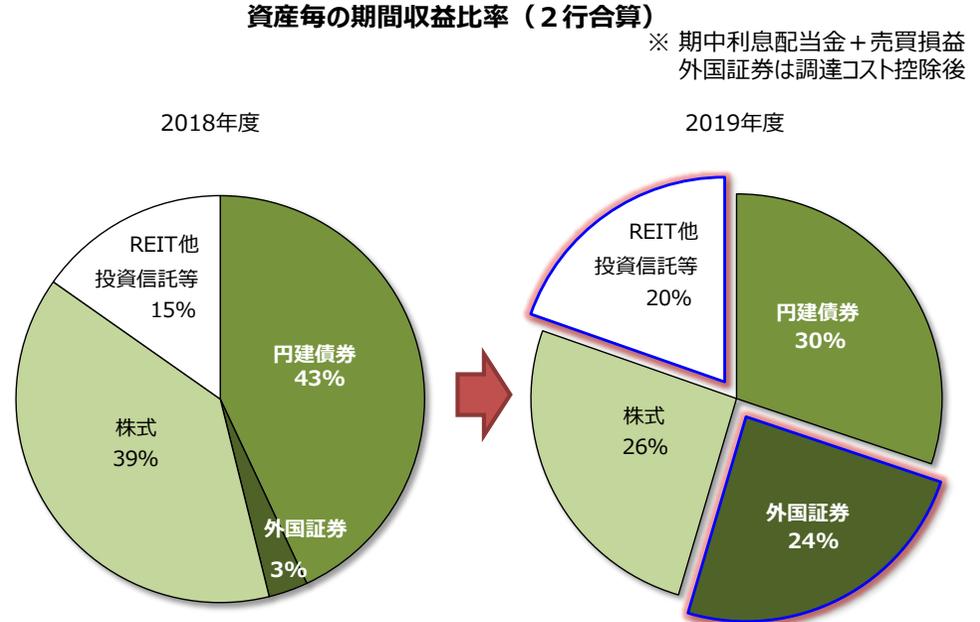
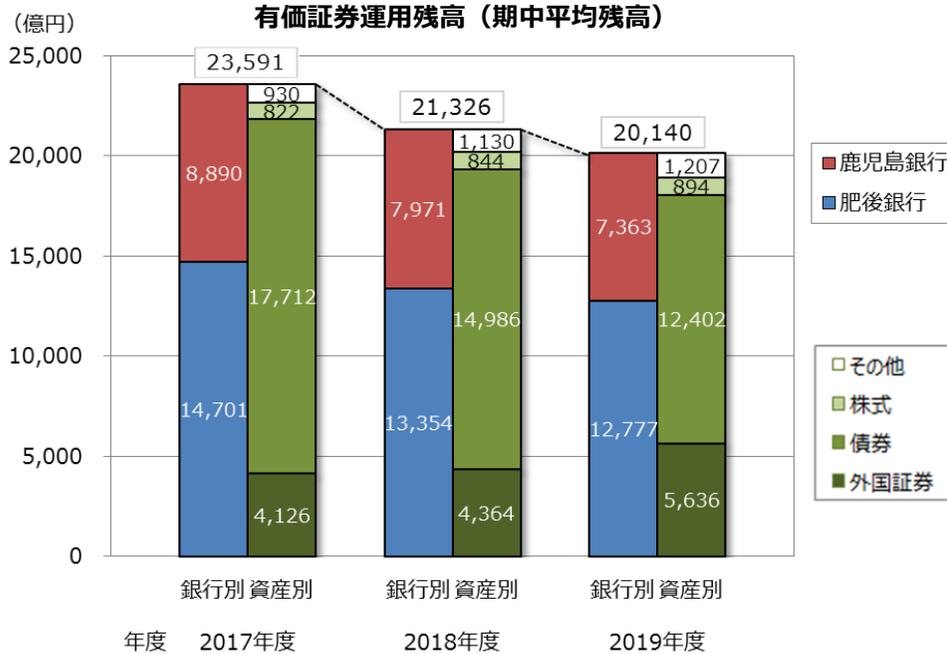
進出支援、現地での支援強化
連携サポート強化

- 鹿銀海外拠点
- 肥銀海外拠点
- 業務提携外銀



9. 市場運用への取り組み

市場部門では総合損益（利息配当金・売買損益・評価損益）の安定拡大による中・長期的な収益力強化に向け、運用の多様化・機動性向上に取り組んでおります。



- 円建債券については償還等により残高が減少しましたが、代替として比較的運用利鞘が厚く、安全性・流動性の高い外国証券・各種ファンド等への投資を行っております。
- 上記代替投資の結果、有価証券利回りは若干上昇しました。
- また現物資産の多様化に加え、デリバティブ取引の活用等による運用手法の多様化や機動性向上に努めております。これらの結果、市場運用全体の期間損益に占める運用資産毎の収益比率は上記の通りとなりました。

ミュージックセキュリティーズ株式会社、熊本第一信用金庫、九州電力株式会社等の共同出資により、2020年1月に株式会社グローバル・クラウドファンディングを設立。多様化する資金調達手段の一つとして2020年5月より事業開始。

株式会社グローバル・クラウドファンディング



プロジェクト	種類
さしより応援プロジェクト（コロナ対応）	購入型
あか牛の販路拡大プロジェクト	購入型
球磨焼酎情熱プロジェクト	投資型

第1号案件

コロナ対策としてクラウドファンディングを活用。新型コロナウイルス感染症により影響を受け、売上が減少している飲食店を「資金の前払い」で応援。5月よりプロジェクト開始

今後も持続可能な地域経済の発展に貢献できる機能を順次開発

地域産業の創出・育成

当社グループは地域の自治体・大学・事業者等との連携により、地域産業の創出・育成に向けた様々な施策展開しております。各種施策を通じて、地域における新たな産業創出を推進していきます。

【スタートアップビジネス創出支援事業「Kagoshima Startup Birth Project2020」】

- ・鹿児島市と共催により、成長意欲の高い企業家、第二創業を目指す若手経営者に対し、スタートアップビジネス講座を開催

【テックプランター】

- ・大学や企業に眠る技術（シーズ）を発掘し、事業化までの伴奏支援を行うプログラム。ビジネスプランの策定を支援し、プレゼン大会等を通じたブラッシュアップを実施 「熊本テックプランター」「鹿児島テックプランター」

【創業支援に関する資金供給制度新設】

- ・肥銀ギャップ資金制度・・・大学の研究と事業化の間に存在する資金ギャップを補う必要資金を寄付の形で供給
- ・肥銀ベンチャーファンド・・・熊本に関係する国内外のベンチャー企業向けに投資。

人材紹介業務の取り組み

【肥銀オフィスビジネス株式会社（肥銀事務サービス）】～2020年4月1日 人材紹介業務開始

新型コロナウイルスの感染拡大の影響が長期化する中、ご勤務先が休業や業務縮小となり、当面の間、副業を通じて新たな業務に従事することをご希望のお客さまに対して、副業勤務者の募集企業をホームページ上で紹介

【九州アジア人材開発協同組合】

人手不足への対応の一環として設立を支援。実習制度の適正運営による国際貢献および、当行取引先の人材に関する課題解決を支援。2020年3月末までの累計採用人数101名。同時点での在日実習生23名。

【民間人材会社とのビジネスマッチング】

取引先企業の幅広い人材ニーズに対応するため、連携する民間人材会社を拡充中

2020年5月 鹿児島銀行本店ビル「よかど鹿児島」グランドオープン

コンセプト：大樹に集う

鹿児島にゆかりがある「人・コト・モノ」が大樹の幹（もと）に集まり、融合・発展することにより、街全体に活気と新しい価値が生まれる。鹿児島の新たな賑わいの拠点。



中央市街地活性化

キャッシュレス推進

地産地消の推進

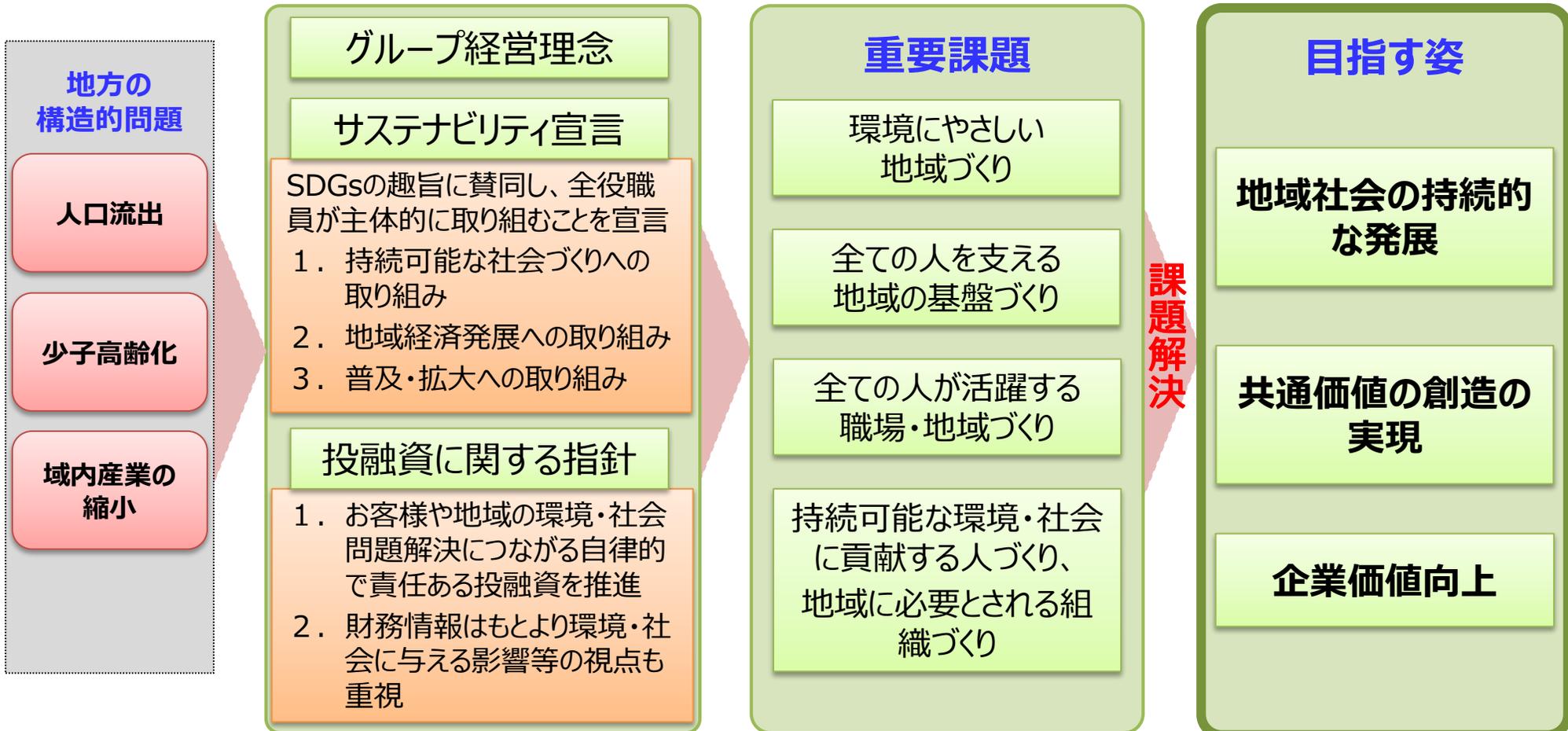
災害時拠点

「災害時における帰宅困難者支援に関する協定」締結（鹿児島市）





当社グループは、グループ経営理念に掲げる「地域とともに成長し、活力あふれる地域社会の実現」に貢献すべく、サステナビリティ宣言を策定し、ESGの観点からお客様や地域のさまざまな課題解決に向けて取り組み、地域社会の持続的な発展に貢献するとともに、その取り組みを通じて、企業価値の向上に努めてまいります。





環境 (Environment)

九州フィナンシャルグループでは、地域の豊かな自然を守り、次の世代に確実に受け渡すため、事業活動やさまざまな社会貢献活動を通し、環境保全に努めています。

事業活動を通じた環境対応

- 「**投融資に関する指針**」(2019年7月)に基づいた、気候変動抑制や生物多様性に資する事業等への積極的支援
- 環境配慮型の定期預金、投資信託等商品取り扱い
 ～阿蘇グリーン定期預金 2,182億円 (寄付額1,091万円)
- 環境格付融資制度・環境配慮型融資商品の推進
- 再生可能エネルギー案件への積極対応
 ～環境関連融資残高 1,082億円
- T C F D 提言への賛同 (2019年7月)

社会貢献活動を通じた環境対応

- 「**グリーン購入に関する指針**」(2020年3月)に基づき、環境に配慮した物品購買活動推進
- 使用済み用紙リサイクルや環境配慮型行用車導入
- 水源涵養林の育成、水田湛水事業、森林整備



➤ 「**第1回 ESGファイナンス・アワード・ジャパン (融資部門)**」銀賞受賞

社会や環境に配慮したESG金融や環境経営に取り組む企業を環境省が表彰。

再生可能エネルギーや農業・観光向け融資を積極的に実施する等、包括的なESG金融に対する取り組みを評価されての受賞。

➤ 「**中・南九州の地域環境共生圏に関する連携協定**」締結

肥後銀行、鹿児島銀行、環境省九州地方環境事務所、大分銀行、宮崎銀行で締結。

地域循環共生圏構築に向けた「国立公園満喫プロジェクト」での連携や、SDG s 普及活動、ESG 融資推進を通して、地域の持続可能な発展を目指す。

社会 (Social)

九州フィナンシャルグループでは、地域総合金融機能や地域産業振興機能を発揮することで、地域の長期的な成長を支援し、「活力あふれる地域社会」を、ともに創りあげていきます。



地方創生

- 外部パートナーとの連携・提携やファンド等を活用した地域産業の創出・育成の取り組み **～共同ファンド実績累計額 98億円**
- 観光・農業振興を目的とした法人を設立し、地域振興施策を展開

▶ クラウドファンディング事業会社設立

～株式会社グローバル・クラウド・ファンディング～

九州の事業者に対し、地域の課題解決に向けた成長資金を供給することを目的に、共同出資により設立

- 球磨焼酎情熱プロジェクト
- さしより応援プロジェクト
- あか牛の販路拡大プロジェクト



- ESG関連私募債発行累計額 **～96億円**

学び舎応援私募債、くまもと復興応援私募債、かぎんSDGs推進私募債、かぎんSDGs推進医療機関債

- ESG関連私募債による寄付累計額 **～18.2百万円**



▶ 2019年度日本経営品質賞（大企業部門）受賞

お客様の視点から経営全体を運営し、自己革新を通じて新しい価値を創出し続けることのできる「卓越した経営の仕組み」を有する企業を表彰。
～肥後銀行が銀行業界では初受賞

地域貢献

- 熊本地震からの創造的復興支援
復興支援商品の取り扱い、復興ファンドの設立
～復興支援関連融資実行累計額 2,527億円
- 地域の創業支援、雇用創出に向けた取り組み
産学官連携「熊本テックプラングランプリ」、鹿児島市共催「Kagoshima Startup Birth Project」開催

働き方改革

- 朝型勤務制度、インターバル勤務制度、時差勤務制度の導入
- テレワークの積極的な活用
～新型コロナウイルス対応により進化

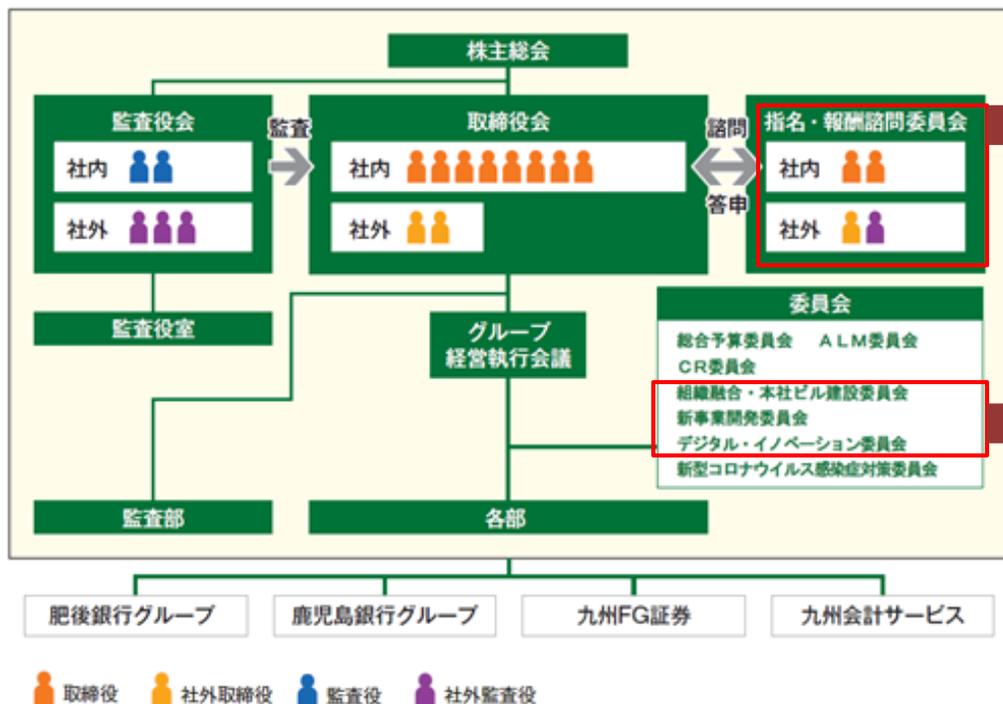


企業統治 (Governance)

九州フィナンシャルグループでは、グループ経営理念の実現に向け、法令等を遵守し、適切な経営の意思決定と業務執行を図るとともに、経営の透明性、公開性および健全性を高め、コーポレートガバナンスの充実に努めております。

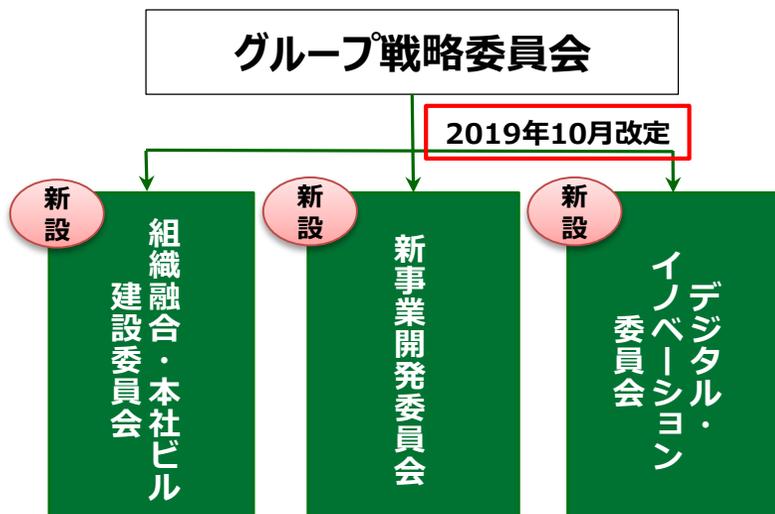


【コーポレートガバナンス概略図】



取締役会の諮問機関として「指名・報酬諮問委員会」を設置

当社グループの組織横断的な課題への対応を強化



※2020年4月1日付 九州会計サービス株式会社を当社の直系子会社化
 ※2020年5月12日付 新型コロナウイルス感染症対策委員会新設

1 4. 資本政策～株主還元

九州フィナンシャルグループは、内部留保の充実に留意しつつ、機動的な資本政策により資本効率を高め、利益成長を通じた安定的な配当を実施することを基本方針とします。

【2020年3月期】

安定的な配当

1株あたり配当金：年間配当金12円（うち中間配当6円）／総額52億円

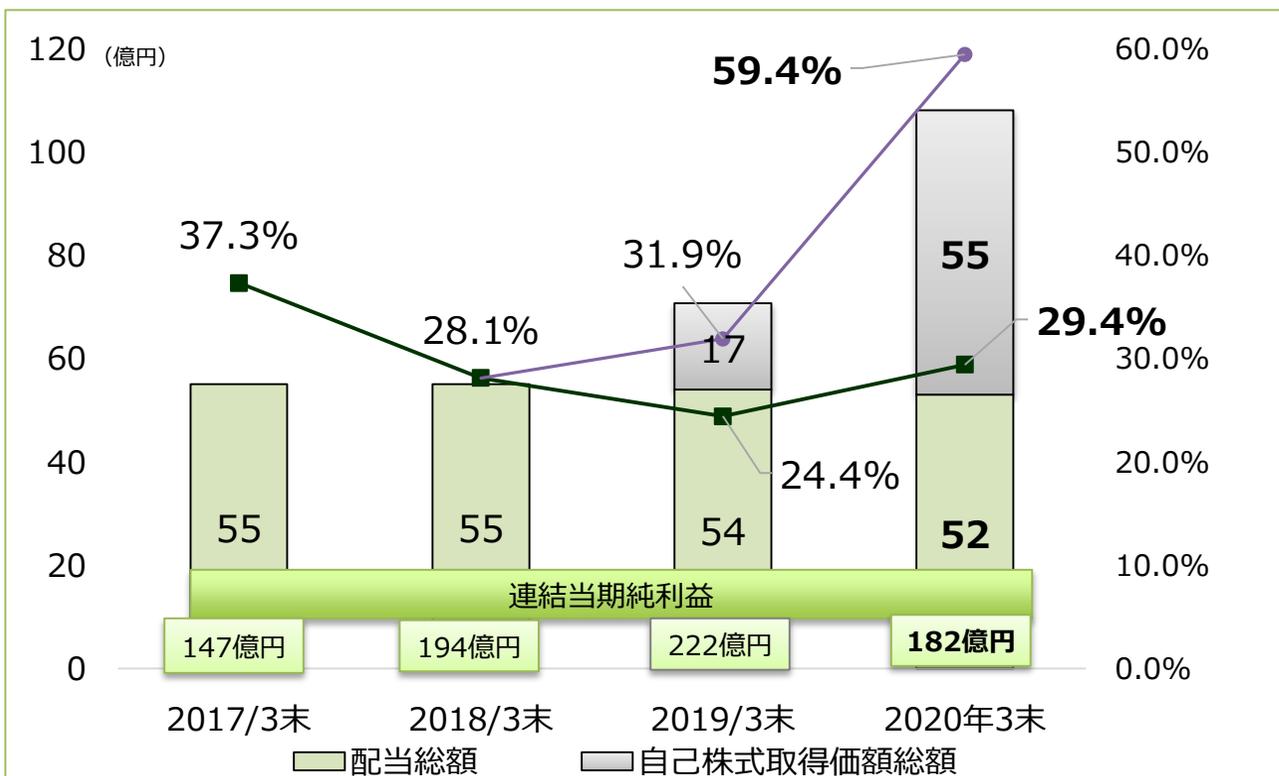
機動的な資本政策

自己株式の取得：55億円 11.6百万株

※発行済株式総数（自己株式を除く）に対する割合2.66%

※取得期間：2019年11月13日～2020年2月12日

配当総額と配当性向の推移



【2021年3月期見込み】

1株あたり配当金

年間配当金12円
（うち中間配当6円）

配当性向（連結）

35.8%

計数資料



1. 決算概況

【肥後銀行】

・業務粗利益は、資金利益・役務取引等利益は減少したものの、国債等債券損益の増加等により、前年度比5億円増加の526億円となった。

・経常利益は、臨時損益は減少したものの業務純益が増加したことから、前年度比3億円増加の185億円となった。

・当期純利益は、前年度比3億円増加の128億円となった。

肥後銀行 損益状況

(億円)

	2019/3	2020/3	増減
業務粗利益	521	526	5
うち資金利益	465	439	△26
うち役務取引等利益	69	63	△5
うちその他業務利益	△13	23	37
(うち国債等債券損益)	(4)	(32)	27
経費 (△)	361	355	△5
コア業務純益	156	139	△16
一般貸倒引当金繰入額 (△)	△1	0	2
業務純益	161	170	8
臨時損益	19	14	△4
不良債権処理額(△)	8	2	△6
株式等関係損益	33	18	△14
その他臨時損益	△5	△1	3
経常利益	181	185	3
特別損益	△1	0	2
税引前当期純利益	180	186	6
当期純利益	124	128	3
(与信費用)	7	3	△3

【鹿児島銀行】

・業務粗利益は、資金利益・役務取引等利益は減少したものの、国債等債券損益の改善等により、前年度比12億円増加の528億円となった。

・経常利益は、業務純益及び臨時損益も減少したことから、前年度比12億円減少し162億円となった。

・当期純利益は、前年度比7億円減少し112億円となった。

鹿児島銀行 損益状況

(億円)

	2019/3	2020/3	増減
業務粗利益	516	528	12
うち資金利益	464	448	△16
うち役務取引等利益	52	51	△0
うちその他業務利益	△0	28	29
(うち国債等債券損益)	(△3)	(24)	28
経費 (△)	336	345	9
コア業務純益	184	158	△25
一般貸倒引当金繰入額 (△)	△3	5	9
業務純益	184	177	△6
臨時損益	△10	△15	△5
不良債権処理額(△)	31	2	△28
株式等関係損益	26	△4	△30
その他臨時損益	△5	△8	△3
経常利益	174	162	△12
特別損益	△3	△6	△3
税引前当期純利益	170	155	△15
当期純利益	120	112	△7
(与信費用)	27	8	△19

2. 資金利益

【肥後銀行】 439億円（前年度比△26億円）

・国内、国際の貸出金利息は増加したものの、有価証券利息（国内部門）の減少により、前年度比26億円の減少となった。

【鹿児島銀行】 448億円（前年度比△16億円）

・国内、国際の貸出金利息は増加したものの、有価証券利息（国内部門）の減少により、前年度比16億円の減少となった。

肥後銀行 資金利益の状況

(億円)

	2018/3	2019/3	2020/3	2019/3比 増減
資金利益	461	465	439	△26
国内部門	418	418	399	△18
うち貸出金利息	329	331	332	1
うち預金利息 (△)	6	3	3	△0
うち有価証券利息	117	108	85	△23
国際部門	43	47	39	△7
うち貸出金利息	4	8	13	5
うち預金利息 (△)	0	0	0	0
うち有価証券利息	61	73	90	17

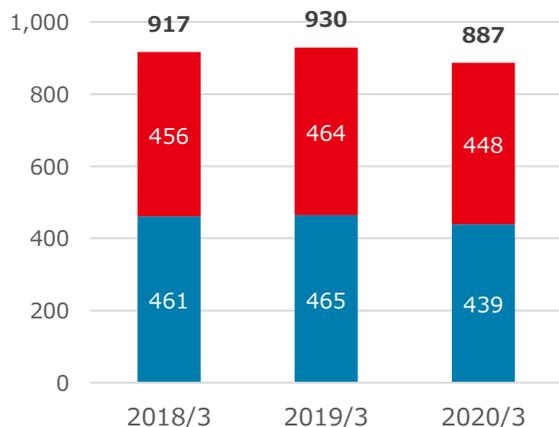
鹿児島銀行 資金利益の状況

(億円)

	2018/3	2019/3	2020/3	2019/3比 増減
資金利益	456	464	448	△16
国内部門	444	452	430	△21
うち貸出金利息	360	360	362	1
うち預金利息 (△)	6	4	3	△0
うち有価証券利息	92	96	73	△23
国際部門	11	12	18	5
うち貸出金利息	0	2	5	3
うち預金利息 (△)	0	0	0	△0
うち有価証券利息	22	23	40	17

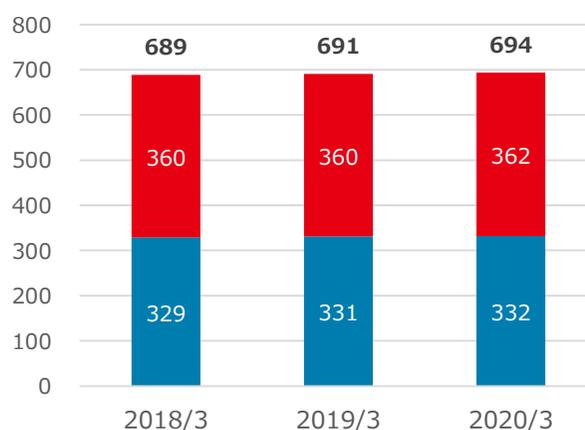
資金利益の推移

(億円)



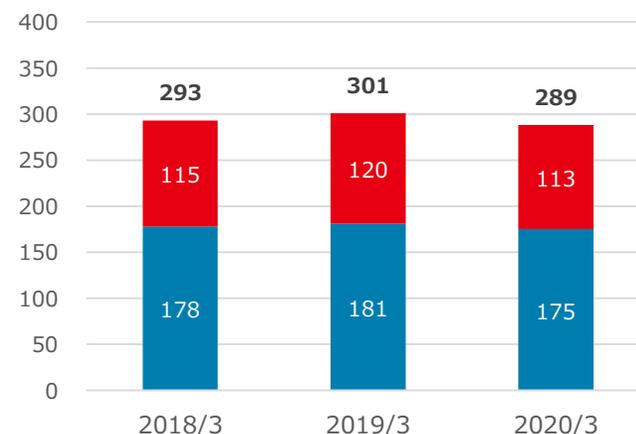
国内貸出金利息の推移

(億円)



有価証券利息の推移

(億円)



鹿児島

肥後

3. 役務取引等利益

【肥後銀行】

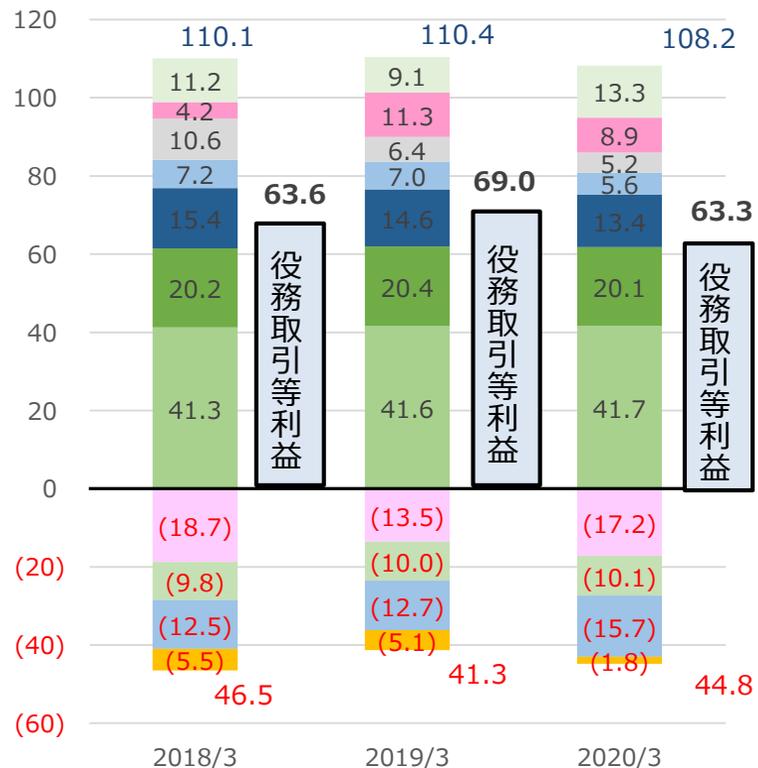
・役務取引等利益は、預り資産関連手数料の減少と団信保険料の増加等により 前年度比5億円減少し63億円となった。

【鹿児島銀行】

・役務取引等利益は、前年度並みの51億円となった。

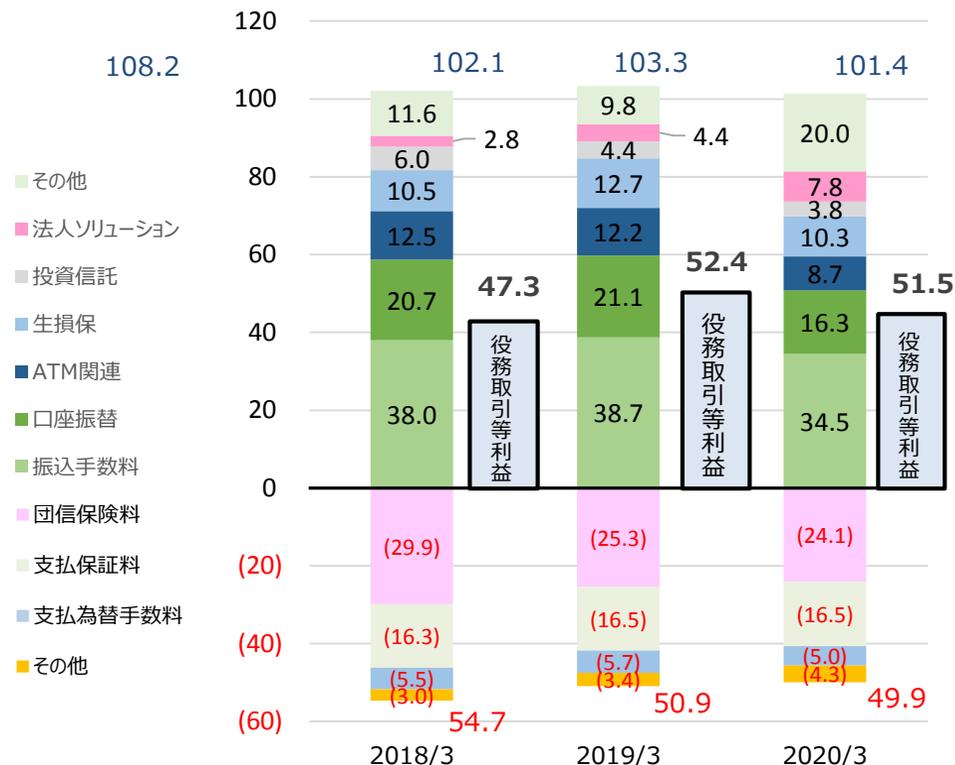
肥後銀行 役務取引等利益の状況

(億円)



鹿児島銀行 役務取引等利益の状況

(億円)



【肥後銀行】

・経費は、削減効果もあり前年度比5億円減少し355億円となった。

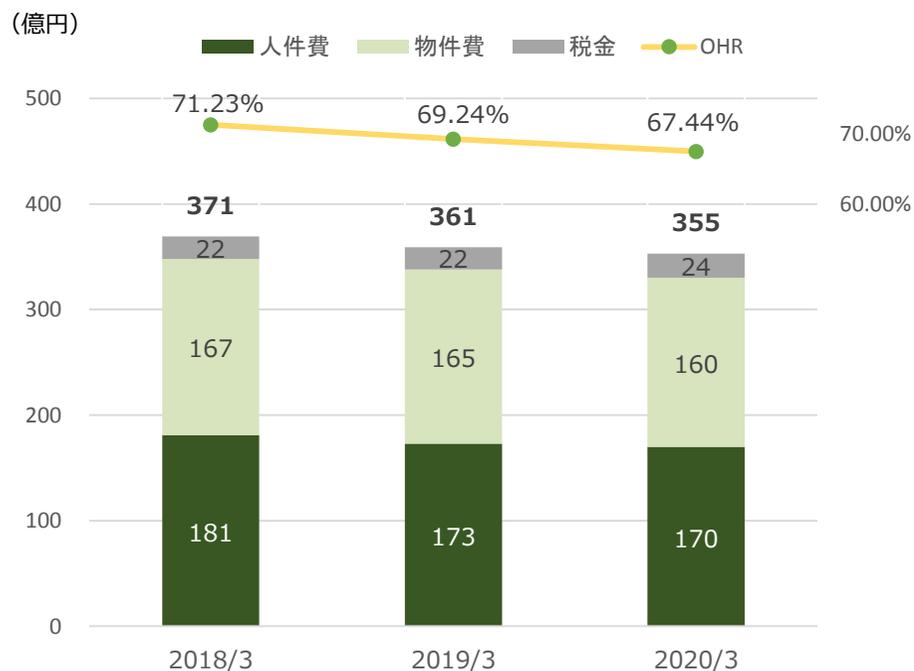
・OHRは、前年度比△1.80%の67.44%となった。

【鹿児島銀行】

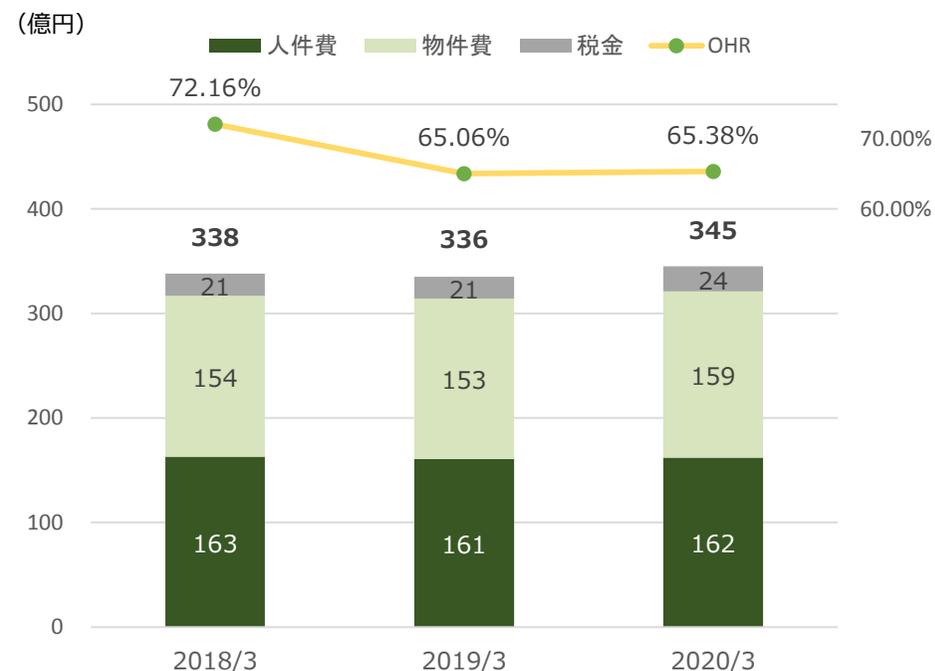
・経費は、新本店別館ビル関連の経費および税金が増加したことから、前年度比9億円増加し345億円となった。

・OHRは、前年度比+0.32%の65.38%となった。

肥後銀行 経費の状況



鹿児島銀行 経費の状況



5. 貸出金 (平残)

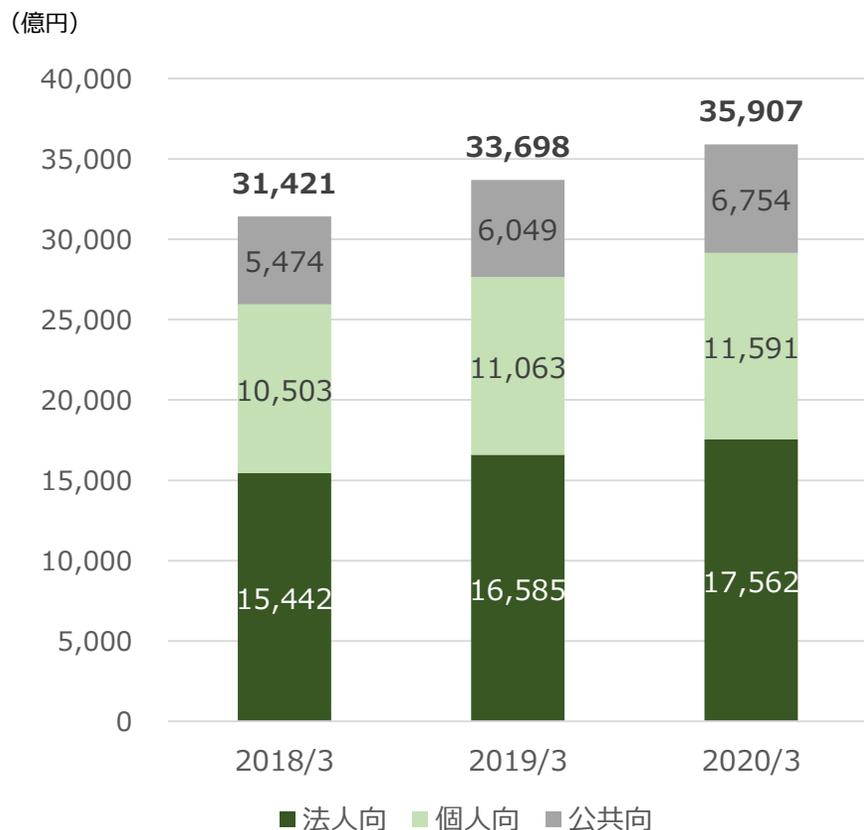
【肥後銀行】(平残)

・各セクター向けの貸出がいずれも増加したことから、前年度比2,209億円増加し、3兆5,907億円となった。

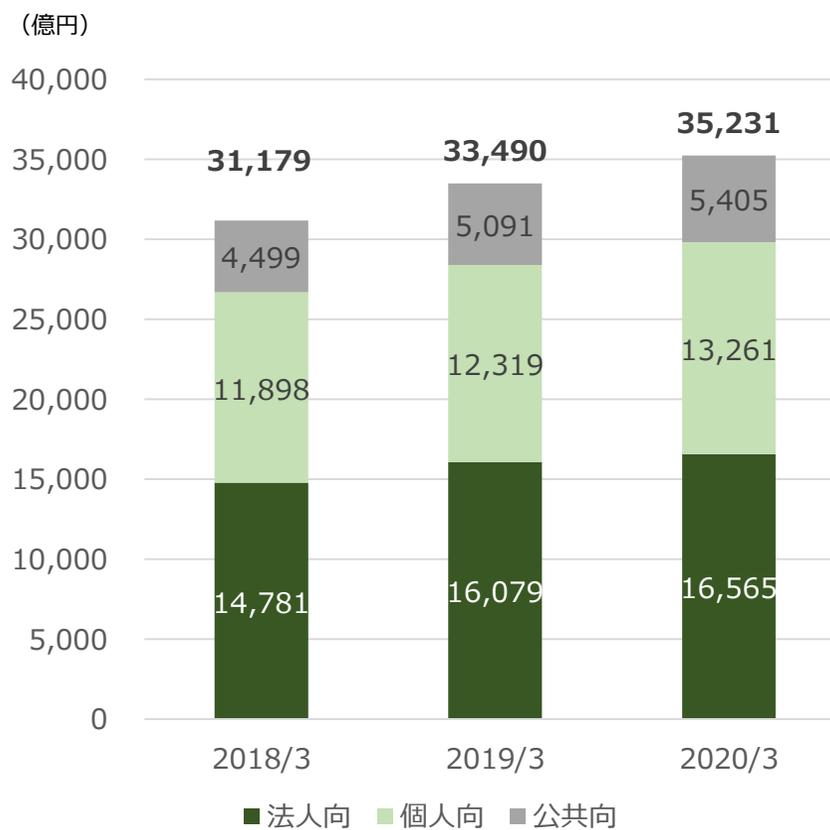
【鹿児島銀行】(平残)

・各セクター向けの貸出がいずれも増加したことから、前年度比1,741億円増加し、3兆5,231億円となった。

肥後銀行 平残



鹿児島銀行 平残

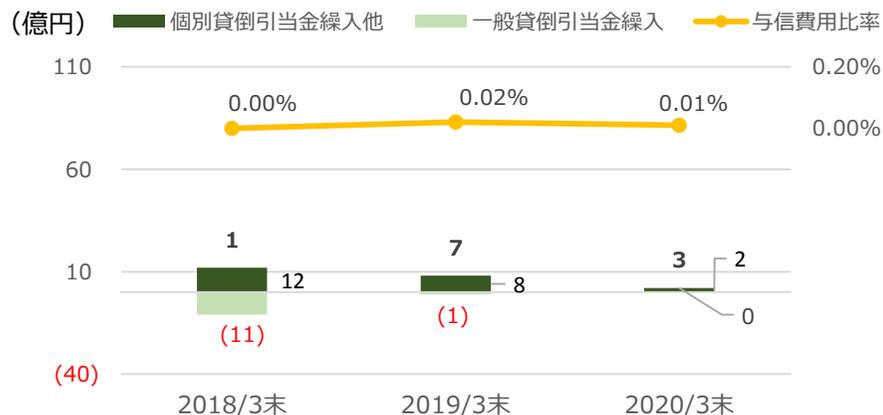


6. 与信費用と金融再生法開示債権

【肥後銀行】

- ・与信費用比率は、前年度末比△0.01%の0.01%となった。
- ・不良債権比率は、前年度末比△0.07%の1.50%となった。

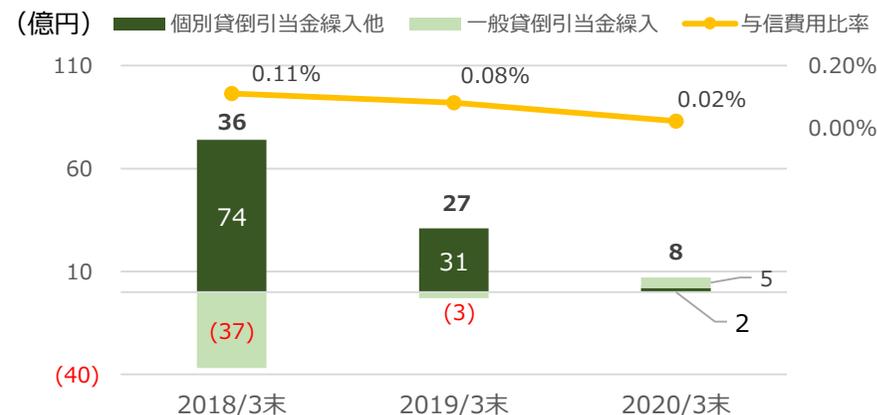
肥後銀行 与信費用の状況



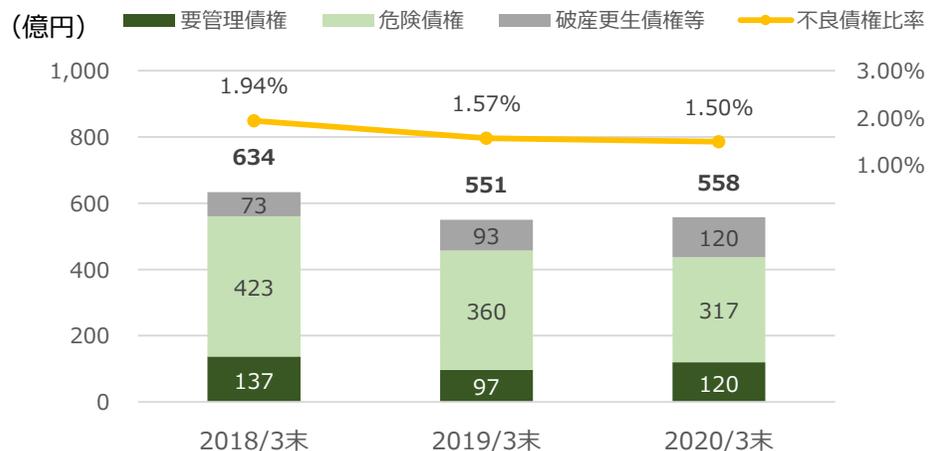
【鹿児島銀行】

- ・与信費用比率は、前年度末比△0.06%の0.02%となった。
- ・不良債権比率は、前年度末比△0.09%の2.18%となった。

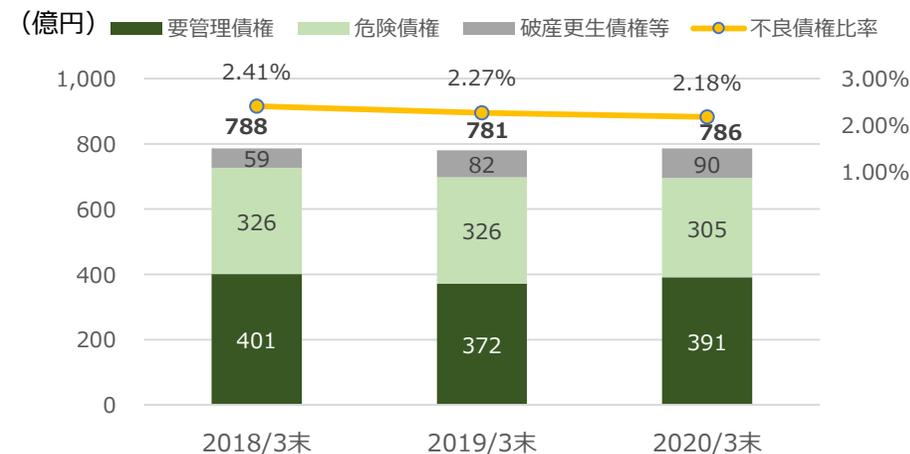
鹿児島銀行 与信費用の状況



肥後銀行 金融再生法開示債権の状況



鹿児島銀行 金融再生法開示債権の状況

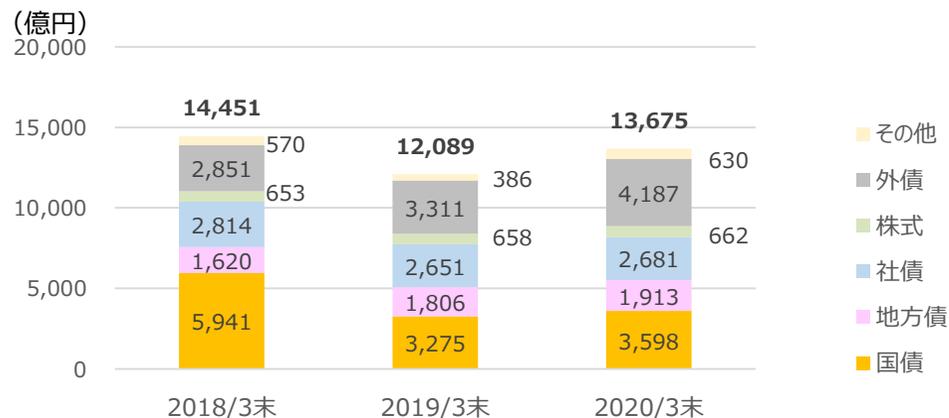


7. 有価証券

【肥後銀行】

・有価証券残高は、外国証券等が増加したことから、前年度末比1,585億円増加し1兆3,675億円となった。

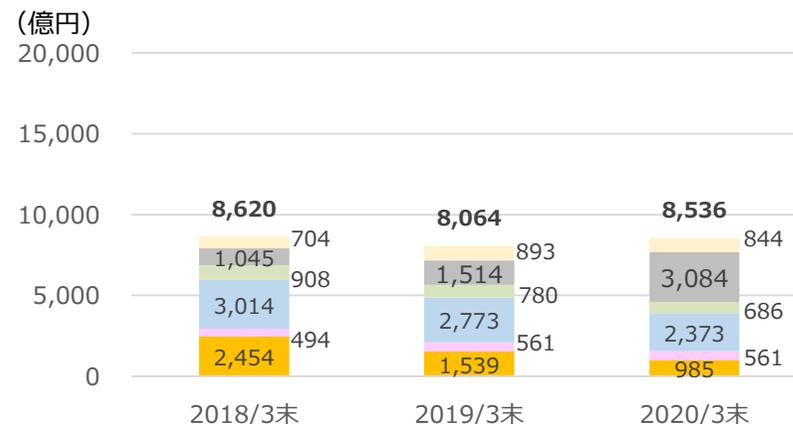
肥後銀行 有価証券残高の状況



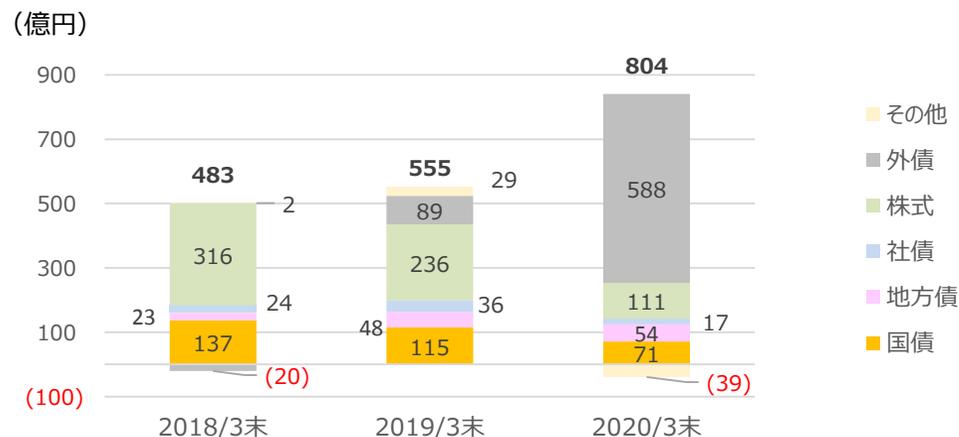
【鹿児島銀行】

・有価証券残高は、国債及び社債等は減少したものの外国証券等の増加により、前年度末比472億円増加し8,536億円となった。

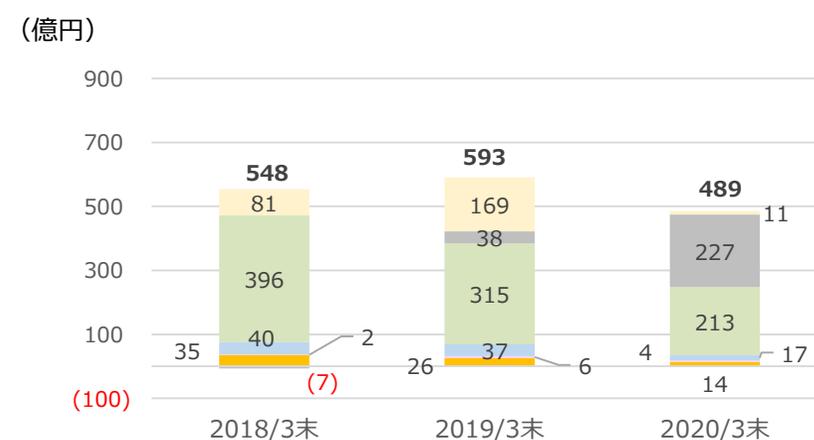
鹿児島銀行 有価証券残高の状況



肥後銀行 有価証券評価損益の状況



鹿児島銀行 有価証券評価損益の状況

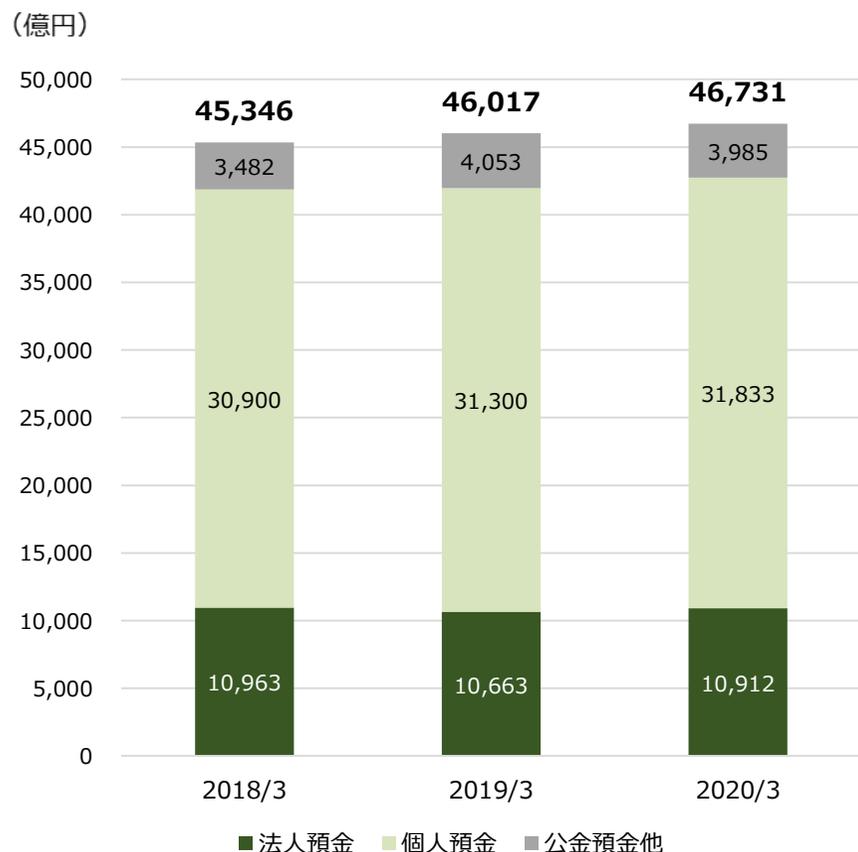


8. 総預金（含むNCD）（平残）

【肥後銀行】

・総預金平残は、公金預金他は減少したものの、法人・個人ともに増加。前年度比713億円増加し4兆6,731億円となった。

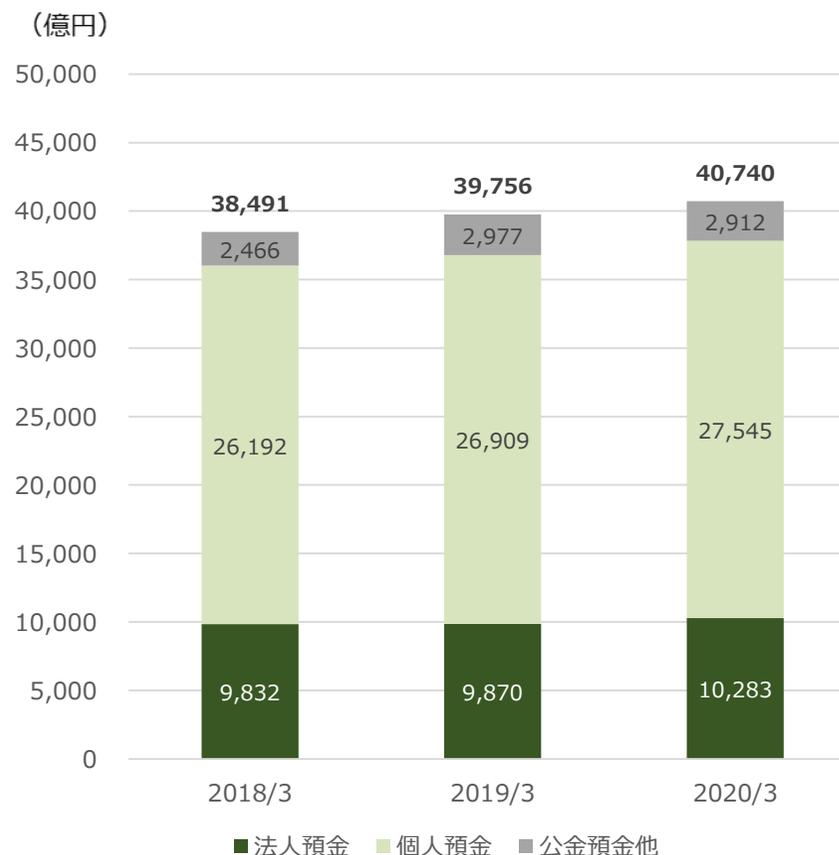
肥後銀行 平残



【鹿児島銀行】

・総預金平残は、公金預金他は減少したものの、法人・個人ともに増加。前年度末比984億円増加し4兆740億円となった。

鹿児島銀行 平残



9. 自己資本比率

【肥後銀行】

・自己資本比率は、貸出金増加に伴うリスクアセットの増加を主要因として、前年度末比△0.42%の10.31%となった。

肥後銀行 自己資本比率の状況



	(億円)			
	2018/3	2019/3	2020/3	増減
①コア資本額	2,662	2,748	2,820	71
②リスクアセット	24,020	25,610	27,352	1,742
自己資本比率	11.08%	10.73%	10.31%	△0.42%

【鹿児島銀行】

・自己資本比率は、貸出金増加に伴うリスクアセットの増加を主要因として、前年度末比△0.10%の10.25%となった。

鹿児島銀行 自己資本比率の状況



	(億円)			
	2018/3	2019/3	2020/3	増減
①コア資本額	2,703	2,766	2,848	81
②リスクアセット	25,211	26,716	27,780	1,064
自己資本比率	10.72%	10.35%	10.25%	△0.10%

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。

こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。

将来の業績は、経営環境の変化等により、目標対比異なる可能性があることにご留意ください。



Kyushu FG

本件に関するお問い合わせ先

株式会社 九州フィナンシャルグループ 広報・IR部

縄田 TEL 096-326-5607